

高校生のグローバル関心と SGH についての意識調査報告書

筑波大学 SGH 研究班

2016 年



University of Tsukuba



SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

筑波大学附属学校教育局

緒 言

本年度のSGH調査では、全国のSGH指定校・アソシエイトの高校1年生～3年生を対象としてSGHプログラムの受講生と非受講生間のグローバル意識や行動の差異について、また、SGHプログラムにおける効果性について研究調査を行いました。調査にご協力いただいた各校の皆様方に厚く御礼申し上げます。

本調査を通して、各校の特色あるSGHプログラム開発に向けた創意工夫が伝わるとともに、次世代グローバル人材の育成に向けた、新しい教育方法開発の重要性が再認識されるといえるでしょう。

本調査結果の情報共有が、SGH校の一層のプログラム開発の発展のために役立つことを願っております。

筑波大学副学長・理事：附属学校教育局教育長 宮本信也

＝＝

執筆者（五十音順）

川崎将男 株式会社アルゴ取締役マーケティング本部長（第2章・第6章）

木野泰伸 筑波大学大学院ビジネスサイエンス系准教授（第8章）

朱藝 筑波大学大学院ビジネスサイエンス系助教（第4章）

椿広計 独立行政法人統計センター理事長・筑波大学名誉教授（第3章・第7章）

永井裕久 筑波大学附属学校教育局特命補佐・大学院ビジネスサイエンス系教授
（第1章・第3章）

ベントン キャロライン 筑波大学副学長・理事：国際担当（第5章）

目 次

緒言

第 1 章 研究概要	1
第 2 章 個人属性と SGH 実施形態・受講経験	2
第 3 章 SGH プログラムと生徒の意識特性・行動特性との関連性	5
第 4 章 教員と学習方法	14
第 5 章 学習活動への参加	22
第 6 章 SGH 受講期間・頻度	27
第 7 章 SGH プログラムの後輩への推奨意図に影響する要因の探索	29
第 8 章 自由記入欄の分析	31
補遺 調査票	48

第1章 研究概要

1-1. 調査目的

本研究の調査目的は、主として SGH プログラム受講による SGH プログラム受講生の研修効果測定であり、その従属変数として、グローバルな視点や意識に関するグローバルマインドセット、およびグローバルな環境において課題解決行動を発揮できるためのグローバルコンピテンシーを用いた。また、グローバルマインドセット、コンピテンシーの獲得を促進するための教育方法を探索的に調査した。

1-2. 調査対象

調査にあたり、SGH 指定校・アソシエイト計 179 校を対象として調査依頼を行い、このうち 115 校（64.25%）から調査協力への回答を得た。

1-3. 調査方法と回答

平成 28 年 10 月 4 日～24 日の間に、高校 1 年生～3 年生（SGH プログラム受講生と非受講生）を対象に Web 調査を実施した。回答方法は、調査協力者が個別に端末から事前に配布した ID とパスワードを用いてアクセスして入力する方法を用いた。

1-4. 実施結果

調査実施期限内の回答ファイル数は、10,795 件であった。これにデータクリーニングの作業を行い、中断回答（771 件）、50%以上の欠損値等（18 件）、中心化傾向（298 件）を削除した、9,708 件を最終分析サンプル数とした。有効回答者のプロフィールは、以下の通りである。

- ・学年：1 年生（40.9%）・2 年生（37.6%）・3 年生（21.5%）
- ・性別：女子（60.4%）・男子（39.6%）
- ・SGH 受講者比率：80%

第2章 個人属性とSGH実施形態・受講経験

2-1. 個人属性

調査回答について、図2-1にQ1（個人属性）の結果を示す。

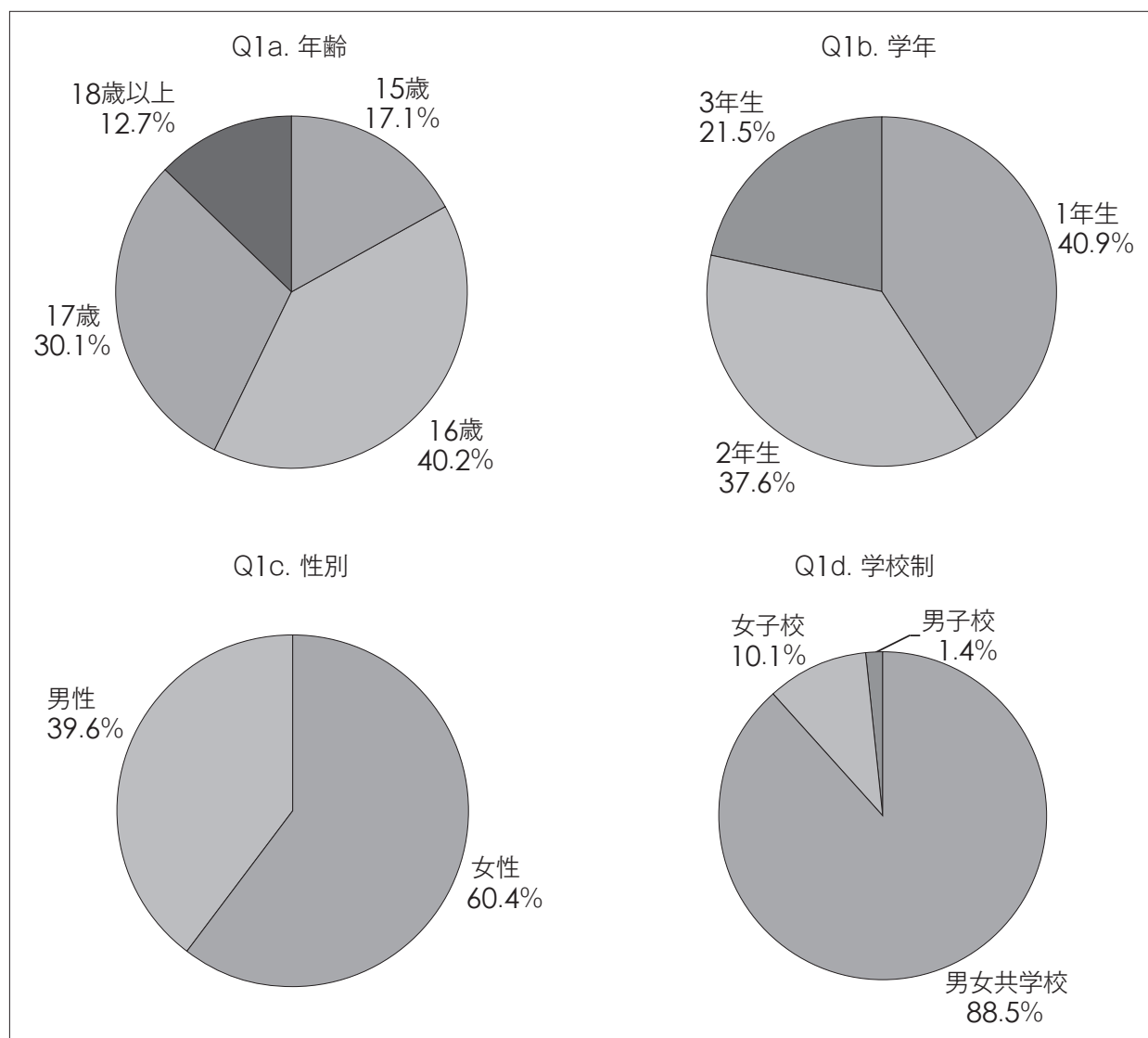


図2-1 回答者の個人属性 (Q1a-d)

「a. 年齢」「b. 学年」の円グラフにあるように、回答者構成としては1年生（40.9%）がもっとも多く、2年生（37.6%）、3年生（21.5%）の順序であった。「c. 性別」については、女性（60.4%）の方が多く、男女比は約4対6であった。「d. 学校制」については、男女共学制（88.5%）が大多数を占め、それ以外の多くは女子校（10.1%）であった。

2-2. SGH 実施形態・受講経験

他方、「Q9. SGH 実施形態」、「Q10. SGH 受講経験」については、図 2-2 に示す結果となった。

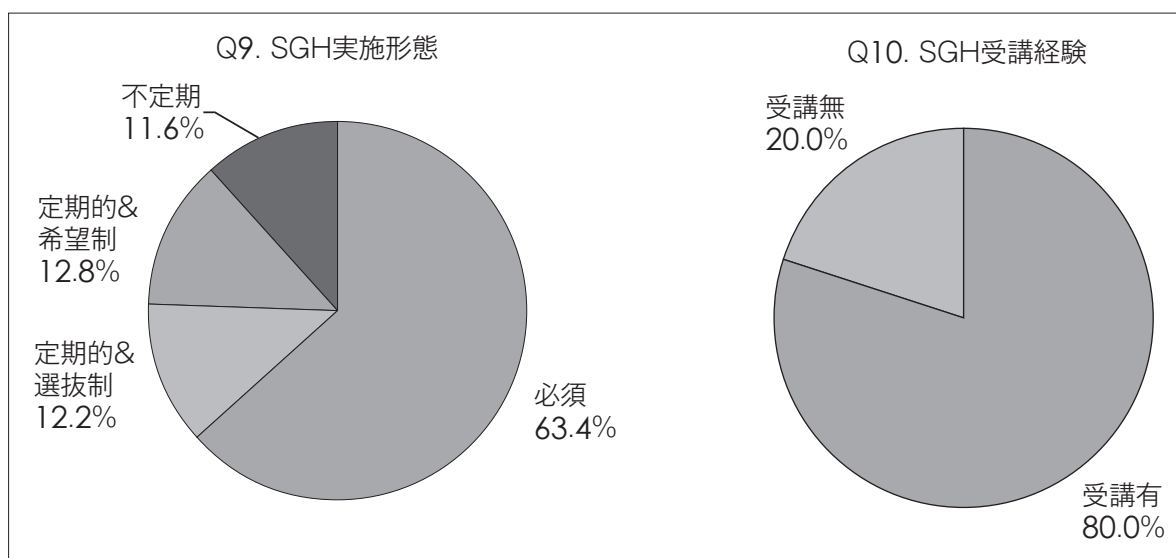


図 2-2 SGH 実施形態・受講経験 (Q9-10)

「Q9. SGH 実施形態」については、「全員が時間割の中で受けることになっている。」がもっとも多く 6 割以上を占め、残り 4 割弱を、「定期的に開かれ、希望者の中から、選抜された生徒のみ受けることができる。」、「定期的に開かれ、受講は任意だが、希望すれば誰でも受けることができる。」、「不定期的に講座が開かれている。」のケースが分け合う形となった。

また、「Q10. SGH 受講経験」に示すように、SGH プログラム受講経験がある生徒と、受講経験がない生徒との比率は 4 対 1 であった。

2-3. 分析単位

個人属性データ、及び SGH 実施形態・受講経験から、図 2-3 に示す「学年×性別× SGH 受講経験」、図 2-4 に示す「SGH 実施形態× SGH 受講経験」を分析単位として、Q2 以降の分析を行った。

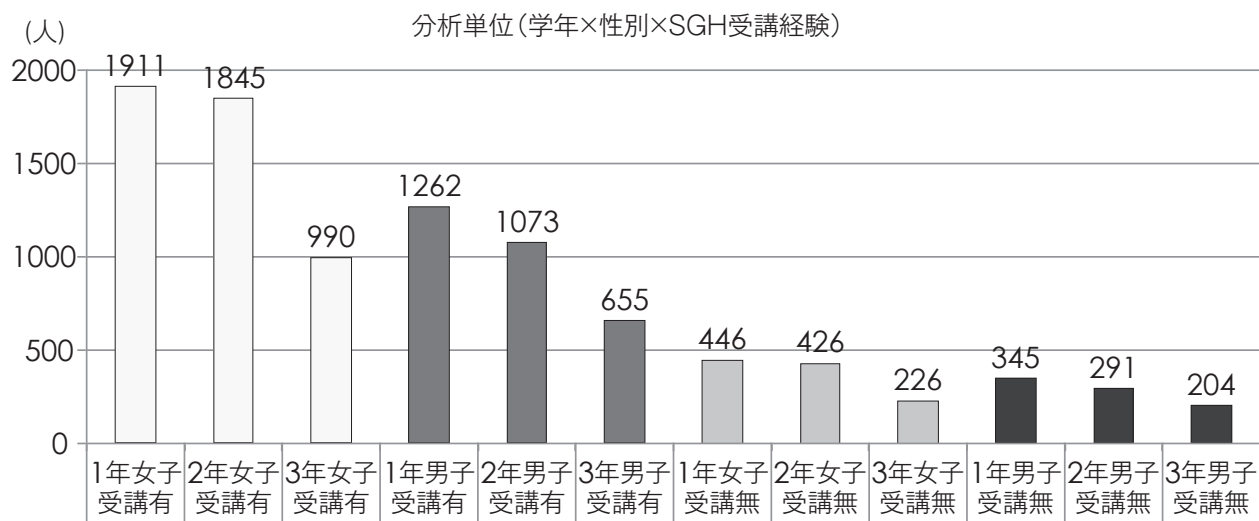


図2-3 分析単位(学年×性別×SGH受講経験)

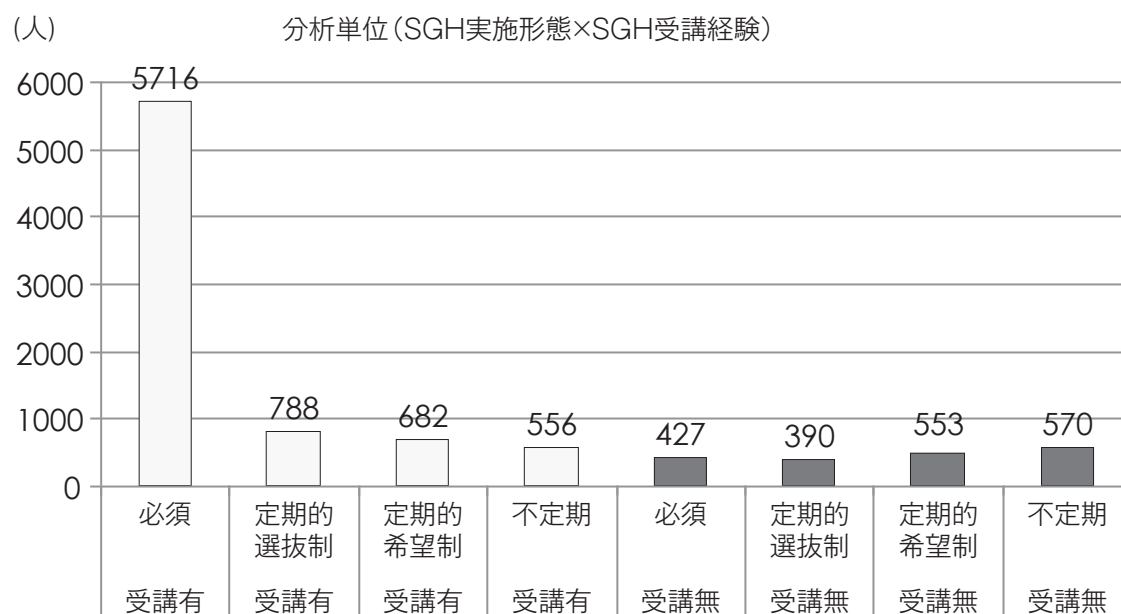


図2-4 分析単位(SGH実施形態×SGH受講経験)

第3章 SGH プログラムと生徒の意識特性・行動特性との関連性

3-1. 全般的な SGH 受講によるグローバル意識・行動への影響

SHG プログラム「受講生」と「非受講生」を比較したグローバル意識・行動特性の高い習得率は、全般的に、「受講生」は「非受講生」にくらべて、グローバルマインドセット・コンピテンシーの得点が高い。具体的に、グローバルマインドセット（図3-1-1）は「異文化への進出意欲（Q2h. 「様々な外国へ行ってみよう。」、Q2i. 「外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。」、Q3o. 「自分のやりたいことを見つけ、それに情熱を傾けたい。」、グローバルコンピテンシー（図3-1-2）は、Q2g. 「相手との協力関係を築くように心がける。」、Q2c. 「自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。」、Q2h. 「反対意見にも耳を傾ける。」において、より高い受講効果が見受けられる。

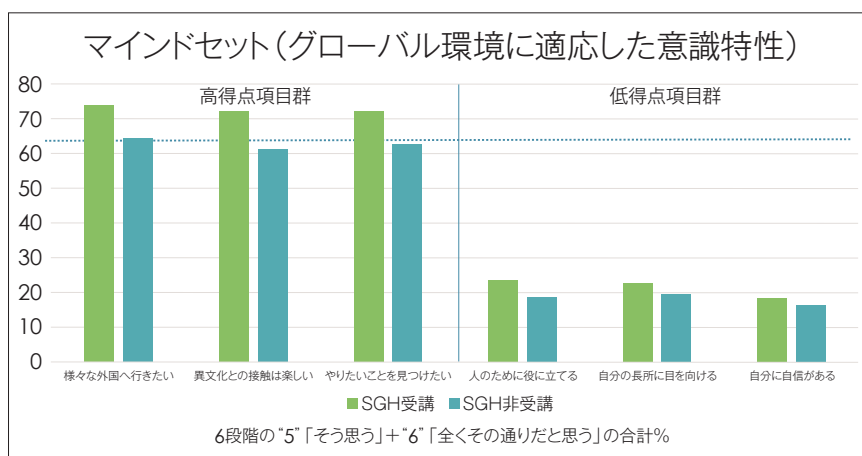


図3-1-1 SGH 受講者と非受講者の比較（マインドセット）

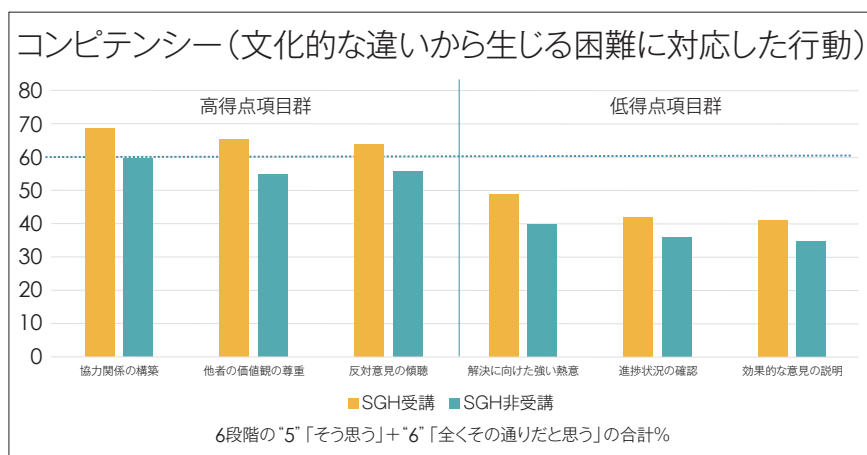


図3-1-2 SGH 受講者と非受講者の比較（コンピテンシー）

3-2. SGH プログラム受講によるグローバル意識・行動の経年発達

研修効果は、学習した内容について、経験を通して発展させ、定着していくと考えられる。そのため、経年効果を捉えるための時系列的分析を行った。高校1年生から3年生の学年間横断的分析により、グローバルマインドセットは、プログラム「受講生」と「非受講生」の間で、明確に前者の意識が高く、2年生から3年生にかけて「受講生」は、学習効果が顕在化するのに対し、「非受講生」は緩やかに後退する結果が示された。

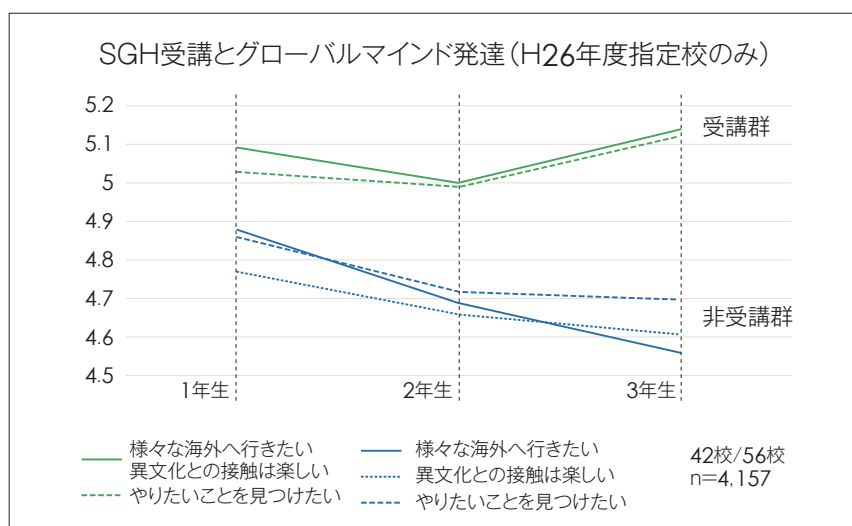


図3-2-1 受講群と非受講群の比較 (マインドセット)

一方、グローバルコンピテンシーに関して、「受講生」と「非受講生」は、「反対意見の傾聴」(1年生から2年生にかけて一度低下するものの、2年から3年にかけて上昇する。)を除いて、共にグローバル能力の活用力が2年生から3年生にかけて向上するが、「受講生」はその傾向はより強くみられる。

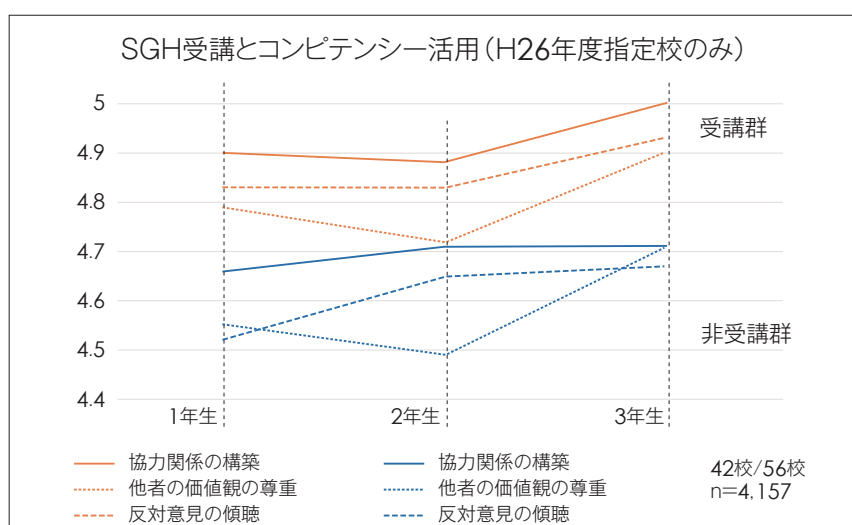


図3-2-2 受講群と非受講群 (コンピテンシー)

3-3. プログラム受講と行動特性

生徒が実行できると考える行動特性（Q2）について、SGH プログラムとの関連性を受講の無い者も含めた 9,686 名に対して実施した。Q2. の質問項目は、「もし、あなたが日本国内で文化の違いから生じる、困った（困惑した）出来事（例えば、出会った外国人との言葉の壁、ジェスチャー・生活習慣・価値観の違い）に直面したら、あなたは、どのくらい、以下に挙げる行動をとれると思いますか？」であり、6 件法（1：「全くそうは思わない」～6：「全くその通りだと思う」）で実施した。

この結果、Q2b. 「必要ならば、最初に決めたことを変える。」、Q2c. 「自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。」、Q2d. 「複数の視点から問題の原因を考える。」、Q2f. 「相手が意見を述べやすいように心がける。」、Q2g. 「相手との協力関係を築くように心がける。」、Q2h. 「反対意見にも耳を傾ける。」、Q2i. 「自分の得意な能力を活かす行動をとる。」、Q2m. 「解決に向けて強い熱意を持ち続ける。」については、教育方法や機会などとの関連性を機械学習技法（Classification Tree）により抽出した。

SGH 受講生と非受講生の間に、海外経験（渡航経験、渡航国数、渡航期間）について統計的に有意な差異は認められなかった。しかし、SGH プログラム受講生（特に、希望者）の性質として、グローバルな行動特性を受講前に有していた可能性も否定はできない。Q2a. 「相手が置かれた立場や気持ちを察する。」、Q2e. 「複数の選択肢を考える。」、Q2j. 「自分の意見を効果的に述べて相手に説明する。」、Q2k. 「解決が進んでいるか、途中で確認する。」、Q2l. 「今回の出来事から、学んだことを振り返る。」については有効な教育方法などは機械学習技法では見出されなかった。

3-4. グループワークが行動特性形成に有効な場合

表 3-4-1 に示すように、Q2b. 「必要ならば最初に決めたことを変える。」という行動特性に対して、日本語グループワークが「非常に多い」ことが強く寄与している可能性が示唆されている。この種のグループワーク経験が「非常に多くはない」グループでも、海外修学旅行経験が行動特性形成に寄与している可能性もある。

表 3-4-1 「必要ならば、最初に決めたことを変える。」と関連性の高い学習方法・体験

日本語グループワーク と海外修学旅行体験	必要ならば、最初に決めたことを変える。						合計
	1	2	3	4	5	6	
日本語グループワーク 非常に多い	1.9%	3.4%	9.8%	25.0%	33.0%	27.0%	3428
日本語グループワーク 非常に多くはない 海外修学旅行経験有	1.7%	3.4%	10.0%	31.0%	35.0%	18.0%	3260
日本語グループワーク 非常に多くはない 海外修学旅行経験無	2.4%	4.5%	13.0%	35.0%	31.0%	14.0%	2998
合計	2.0%	3.7%	11.0%	30.0%	33.0%	20.0%	9686

また、表3-4-2に示すように、Q2g.「相手との協力関係を築くように心がける。」という行動特性形成に対しては、日本語でのグループワークが「非常に多い」という教育方法が大きく寄与している可能性が示唆されている。

表3-4-2 「相手との協力関係を築くように心がける。」と関連性の高い学習方法

日本語での グループワーク	相手との協力関係を築くように心がける。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	1.6%	1.4%	4.0%	18.0%	33.0%	42.0%	3428
非常に多くはない	1.6%	2.6%	6.7%	26.0%	37.0%	26.0%	6258
合計	1.6%	2.2%	5.8%	23.0%	36.0%	32.0%	9686

3-5. プレゼンテーションが行動特性形成に有効な場合

表3-5-1に示すように、Q2c.「自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。」という行動特性形成に対しては、英語プレゼンテーションが「非常に多い」という教育方法が大きく寄与している可能性が示唆されている。

表3-5-1 「自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。」と関連性の高い学習方法

英語の プレゼンテーション	自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	2.2%	1.8%	4.5%	18.0%	31.0%	43.0%	1622
非常に多くはない	1.5%	2.1%	7.4%	28.0%	36.0%	25.0%	8063
合計	1.6%	2.1%	6.9%	26.0%	35.0%	28.0%	9685

また、表3-5-2に示すように、Q2d.「複数の視点から問題の原因を考える。」という行動特性形成に対しては、英語プレゼンテーションと日本語プレゼンテーションが共に「非常に多い」という教育方法が大きく寄与している可能性が示唆されている。

表3-5-2 「複数の視点から問題の原因を考える。」と関連性の高い学習方法

英語と日本語の プレゼンテーション	複数の視点から問題の原因を考える。						合計
	1	2	3	4	5	6	
共に非常に多い	2.4%	2.3%	6.5%	22.0%	29.0%	37.0%	903
英語だけ非常に多い	1.2%	1.8%	11.0%	29.0%	34.0%	23.0%	674
共に非常に多くはない	1.6%	4.4%	15.0%	34.0%	30.0%	15.0%	8109
合計	1.7%	4.0%	14.0%	33.0%	31.0%	18.0%	9686

一方、表3-5-3に示すように、Q2m.「解決に向けて強い熱意を持ち続ける。」という行動特性形成に対しては、日本語でのプレゼンテーションが「非常に多い」という教育方法が大きく寄与している可能性が示唆されている。

表3-5-3 「解決に向けて強い熱意を持ち続ける。」と関連性の高い学習方法

日本語の プレゼンテーション	解決に向けて強い熱意を持ち続ける。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	3.2%	3.5%	9.3%	24.0%	28.0%	32.0%	2269
非常に多くはない	2.9%	5.0%	15.0%	34.0%	26.0%	17.0%	7417
合計	3.0%	4.6%	14.0%	32.0%	26.0%	20.0%	9686

3-6. ディスカッションが行動特性形成に有効な場合

表3-6-1、表3-6-2、表3-6-3に示すように、Q2f.「相手が意見を述べやすいように心がける。」という行動特性、Q2h.「反対意見にも耳を傾ける。」という行動特性並びに、Q2i.「自分の得意な能力を活かす行動をとる。」という行動形成に対しては、いずれも日本語でのディスカッションが「非常に多い」という教育方法が大きく寄与している可能性が示唆されている。

表3-6-1 「相手が意見を述べやすいように心がける。」と関連性の高い学習方法

日本語での ディスカッション	相手が意見を述べやすいように心がける。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	1.9%	2.3%	7.0%	21.0%	30.0%	38.0%	2130
非常に多くはない	1.7%	3.2%	10.0%	30.0%	34.0%	21.0%	7556
合計	1.7%	3.0%	9.5%	28.0%	33.0%	25.0%	9686

表3-6-2 「反対意見にも耳を傾ける。」と関連性の高い学習方法

日本語での ディスカッション	反対意見にも耳を傾ける。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	2.0%	2.3%	5.6%	19.0%	33.0%	39.0%	2130
非常に多くはない	1.3%	2.3%	7.8%	29.0%	38.0%	22.0%	7556
合計	1.4%	2.3%	7.4%	27.0%	36.0%	26.0%	9686

表3-6-3 「自分の得意な能力を活かす行動をとる。」と関連性の高い学習方法

日本語での ディスカッション	自分の得意な能力を活かす行動をとる。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	2.3%	2.0%	7.7%	23.0%	29.0%	36.0%	2130
非常に多くはない	1.8%	4.0%	13.0%	32.0%	29.0%	19.0%	7556
合計	1.9%	3.6%	12.0%	30.0%	29.0%	23.0%	9686

3-7. SGH プログラムの国際リーダーとしての思考形成との関連

要因の自動探索分析を生徒の気持ちや考えにかかわる Q3 についても同様に行った。ここでも、SGH プログラム受講のない者も含めた 9,686 名を分析対象として、6 件法（1:「全くそうは思わない」～6:「全くその通りだと思う」）で実施した。

この結果、Q3e.「よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。」、Q3f.「自国の歴史・文化について、外国人に外国語で伝えられる。」、Q3g.「自国の政治・経済について、外国人に外国語で伝えられる。」、Q3j.「自分に自信がある。」、Q3k.「自分の短所よりも長所に目を向けている。」、Q3m.「集団での問題解決場面において、率先してリーダー的な役割を担うことができる。」、Q3n.「議論する際、自分だけが意見を述べることなく、参加者それぞれの意見を聞くことができる。」、Q3p.「将来は、外国の大学や大学院への留学（6 ヶ月以上）も視野に入れて勉強したい。」、Q3q.「海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。」については、機械学習技法は以下に示すように教育方法や機会などとの関連性について、抽出した。

これらは、概ね教育方法や生徒の体験から予想される効果と合致しているが、これらの行動特性は、SGH プログラム受講前に生徒が取得していた可能性は否定できないので、因果性を主張できるとは限らない。Q3a.、3b.、3c.、3d.、3e.、3h.、3i.、3l.、3o.、3r. については有効な教育方法、その頻度などは、機械学習技法では見出されなかった。

1) 英語プレゼンテーションが力量形成に有効と考えられる場合

表3-7-1、3-7-2 に示すように Q3f.「自国の歴史・文化について、外国人に外国語で伝えられる。」、Q3g.「自国の政治・経済について、外国人に外国語で伝えられる。」という力量については、英語でのプレゼンテーションが「時々以上ある」学習方法が有効である可能性が示唆された。上記で示した行動特性形成とは異なり、プレゼンテーション頻度が非常に高くなくても力量は形成される可能性がある。

表3-7-1 「自国の歴史・文化について、外国人に外国語で伝えられる。」に関連する学習方法

英語での プレゼンテーション	自国の歴史・文化について、外国人に外国語で伝えられる。						合計
	1	2	3	4	5	6	
時々以上ある	6.9%	14.0%	24.0%	31.0%	15.0%	8.4%	5905
たまにあるかない	15.0%	22.0%	28.0%	23.0%	7.8%	3.6%	3777
合計	10.0%	17.0%	26.0%	28.0%	12.0%	6.5%	9682

表3-7-2 「自国の政治・経済について、外国人に外国語で伝えられる。」に関連する学習方法

英語での プレゼンテーション	自国の政治・経済について、外国人に外国語で伝えられる。						合計
	1	2	3	4	5	6	
時々以上ある	14.0%	23.0%	31.0%	19.0%	8.0%	4.1%	5905
たまにあるかない	26.0%	30.0%	28.0%	10.0%	3.7%	2.2%	3777
合計	19.0%	26.0%	30.0%	16.0%	6.3%	3.4%	9682

2) ディスカッションが力量形成に有効と考えられる場合

表3-7-3、3-7-4、3-7-5、3-7-6で示すように、Q3e.「よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。」、Q3i.「外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。」、Q3k.「自分の短所よりも長所に目を向けている。」、Q3n.「議論する際、自分だけが意見を述べることなく、参加者それぞれの意見を聞くことができる。」という力量の形成にはいずれも、英語でのディスカッションが「非常に多い」という学習方法が有効である可能性が示唆されている。

表3-7-3 「よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。」に関連する学習方法

英語での ディスカッション	よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	4.9%	7.2%	14.0%	20.0%	21.0%	32.0%	1578
非常に多くはない	9.2%	14.0%	22.0%	26.0%	17.0%	12.0%	8108
合計	8.5%	13.0%	21.0%	25.0%	17.0%	15.0%	9686

表3-7-4 「外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。」に関連する学習方法

英語での ディスカッション	外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	11.0%	12.0%	18.0%	28.0%	16.0%	14.0%	1578
非常に多くはない	15.0%	19.0%	28.0%	23.0%	10.0%	5.6%	8108
合計	14.0%	18.0%	26.0%	24.0%	11.0%	7.0%	9686

表3-7-5 「自分の短所よりも長所に目を向けている。」に関連する教育方法

英語での ディスカッション	自分の短所よりも長所に目を向けている。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	7.9%	12.0%	19.0%	25.0%	17.0%	19.0%	1578
非常に多くはない	9.4%	16.0%	30.0%	26.0%	12.0%	7.6%	8108
合計	9.2%	15.0%	28.0%	26.0%	13.0%	9.4%	9686

表3-7-6 「議論する際、自分だけが意見を述べることなく、参加者それぞれの意見を聞くことができる。」に関連する教育方法

英語での ディスカッション	議論する際、自分だけが意見を述べることなく、 参加者それぞれの意見を聞くことができる。						合計
	1	2	3	4	5	6	
非常に多い	1.8%	1.8%	8.4%	25.0%	32.0%	31.0%	1578
非常に多くはない	2.3%	3.9%	12.0%	37.0%	30.0%	15.0%	8108
合計	2.2%	3.6%	12.0%	35.0%	30.0%	18.0%	9686

一方、表3-7-7に示すように、日本語のディスカッションが「非常に多い」ことが、その形成に有効である可能性が示唆されているのが「集団での問題解決場面において、率先してリーダー的な役割を担うことができる。」という項目である。日本語のディスカッションが「非常に多くはない」場合には、英語のディスカッションが「時々以上ある」ことが、かなり効果は落ちるが一定の力量形成効果が存在する可能性もある。

表3-7-7 「集団での問題解決場面において、率先してリーダー的な役割を担うことができる。」に関連する教育方法

日本語あるいは英語での ディスカッション	集団での問題解決場面において、 率先してリーダー的な役割を担うことができる。						合計
	1	2	3	4	5	6	
日本語非常に多い	6.2%	10.0%	21.0%	26.0%	21.0%	17.0%	2130
日本語非常に多くはない 英語時々以上ある	7.9%	15.0%	28.0%	30.0%	14.0%	6.8%	1578
日本語非常に多くはない 英語たまにあるかない	14.0%	19.0%	28.0%	24.0%	10.0%	4.6%	5978
合計	9.6%	15.0%	26.0%	27.0%	14.0%	8.1%	9686

3) 経験が力量形成に有効と考えられる場合

表3-7-8、3-7-9に示すように、海外渡航経験や海外からの留学生との交流経験が力量形成に有効と考えられるものとして、Q3p.「将来は、外国の大学や大学院への留学（6ヵ月以上）も視野に

入れて勉強したい。」、Q3g.「海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。」が挙げられる。ただし、留学の希望については、英語のプレゼンテーションが、「よくある」又は「非常に多い」ことが正の影響を与えている可能性も示唆された。

表3-7-8 「将来は、外国の大学や大学院への留学（6ヵ月以上）も視野に入れて勉強したい。」に関連する体験及び学習方法

海外経験と英語でのプレゼンテーション	将来は、外国の大学や大学院への留学（6ヵ月以上）も視野に入れて勉強したい。						合計
	1	2	3	4	5	6	
2か国以上経験有	8.5%	9.0%	15.0%	17.0%	16.0%	35.0%	3949
2か国以上経験無 プレゼンテーション よくあるか非常に多い	14.0%	12.0%	16.0%	17.0%	14.0%	26.0%	1739
2か国以上経験無 プレゼンテーション 時々以下	19.0%	17.0%	22.0%	19.0%	9.9%	14.0%	3998
合計	14.0%	13.0%	18.0%	18.0%	13.0%	25.0%	9686

表3-7-9 「海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。」に関連する体験

海外からの留学生との交流	海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。						合計
	1	2	3	4	5	6	
2回以上	7.0%	6.9%	14.0%	21.0%	18.0%	33.0%	3251
1回以下	12.0%	13.0%	21.0%	23.0%	14.0%	16.0%	6435
合計	10.0%	11.0%	19.0%	23.0%	16.0%	22.0%	9686

第4章 教員と学習方法

4-1. 教師（日本人高校教諭以外）

校外授業を含めて、日本人の高校の教諭以外で、習った先生がいたか否かの設問（Q5.）を行い、以下の選択肢を提供した（複数選択可）：外国人の高校の教諭、日本人の大学の教員、外国人の大学の教員、卒業生、日本人の民間企業や政府機関等の人、外国人の民間企業や政府機関等の人、その他

表4-1 教員種別

			Q5. 習った先生（日本人高校教諭以外）							回答者数
			外国人の 高校の教諭	日本人の 大学の教員	外国人の 大学の教員	卒業生	日本人の 民間企業や 政府機関等の人	外国人の 民間企業や 政府機関等の人	その他	
受講あり	必須	n 構成比	3915 72.8%	2737 50.9%	1019 19.0%	1725 32.1%	2277 42.3%	1024 19.0%	291 5.4%	5377
	定期的&選択制	n 構成比	569 75.5%	374 49.6%	213 28.2%	242 32.1%	382 50.7%	175 23.2%	48 6.4%	754
	定期的&希望制	n 構成比	505 76.3%	336 50.8%	168 25.4%	183 27.6%	307 46.4%	202 30.5%	38 5.7%	662
	不定期	n 構成比	395 75.2%	233 44.4%	86 16.4%	155 29.5%	180 34.3%	84 16.0%	30 5.7%	525
	Subtotal	n 構成比	5384 73.6%	3680 50.3%	1486 20.3%	2305 31.5%	3146 43.0%	1485 20.3%	407 5.6%	7318
受講なし	必須	n 構成比	274 69.2%	160 40.4%	48 12.1%	92 23.2%	121 30.6%	47 11.9%	27 6.8%	396
	定期的&選択制	n 構成比	262 72.2%	111 30.6%	30 8.3%	87 24.0%	81 22.3%	41 11.3%	18 5.0%	363
	定期的&希望制	n 構成比	387 76.6%	169 33.5%	58 11.5%	131 25.9%	130 25.7%	54 10.7%	23 4.6%	505
	不定期	n 構成比	401 76.8%	189 36.2%	61 11.7%	124 23.8%	120 23.0%	59 11.3%	38 7.3%	522
	Subtotal	n 構成比	1324 74.1%	629 35.2%	197 11.0%	434 24.3%	452 25.3%	201 11.3%	106 5.9%	1786
Total			6708 73.7%	4309 47.3%	1683 18.5%	2739 30.1%	3598 39.5%	1686 18.5%	513 5.6%	9104

分析結果について、「受講あり」と「受講なし」で層別して分析した結果は以下の通りである。

まず、「受講あり」の生徒は、必須であると答えた生徒の中で、「外国人の高校の教諭」（72.8%）、「日本人の大学の教員」（50.9%）、「日本人の民間企業や政府機関等の人」（42.3%）、「卒業生」（32.1%）という順で習う機会が多い。その他の生徒（定期的、選択制、不定期）を見てみると、比率はおおよそ一致していることから、学ぶ機会はおおよそ同じであると言える。

一方、「受講なし」の生徒では、必須であると答えた生徒の中で、最も学習することが多かったのは、「外国人の高校の教諭」（69.2%）で、それに続いて、「日本人の大学の教員」（40.4%）、「日本人の民間企業や政府機関等の人」（30.6%）、「卒業生」（23.2%）であった。また、必須以外を選択した生徒は、上記同様、「外国人の高校の教諭」や「日本人の大学の教員」から習うことが多いというこ

とであるが、「日本人の民間企業や政府機関等の人」と「卒業生」に大きな差はないという点で、必須を選択した生徒とは異なることがわかった。

以上の分析結果から、多少比率が異なるものの、「受講あり」、「受講なし」を選択した生徒のどちらも、「外国人の高校の教諭」、「日本人の大学の教員」、「日本人の民間企業や政府機関等の人」、「卒業生」という順番で、習う機会が多いということがわかった。また、「受講あり」と「受講なし」の生徒の間で、比率の差として最も大きくても3.5%という比較的僅差であることから、どちらの生徒においても、同じような教育経験を有しているということが言えるだろう。

次に、これらの生徒に対して、外国人の高校の教諭から学ぶ機会が非常に多く、日本人の大学の教員からも学ぶ機会がある生徒がおおよそ半数いることがわかる。これらの点から、近年、日本における外国人の高校教諭の増加や高大連携の成果が垣間見えるのではないかと想定できる。

4-2. 学習経験

日本語で行われる授業以外で、次に挙げる学習方法をどのくらい経験したのか（問6）について、それぞれの項目について、5件法（1：「まったくない」～5：「非常に多い」）で回答を求めた。

表4-2に学習方法に関する分析結果を表している。以下5つの部分（表4-2-a～e）に分けて概要を述べ、最後に分析を行う。第一の部分では、「a. 英語による英語以外の授業」について見ていく。「受講あり」の生徒を見る限り、平均が2を上回っていることがわかる。つまり、多くの生徒は、たまたに英語による英語以外の授業があるということである。一方、「受講なし」の生徒を見ると、平均は2に届かないことから、頻度は「受講あり」の生徒に比べ、少ないことがわかる。

表4-2-a 学習方法（英語による英語以外の授業）

			Q6. 学習方法 - 1		
			n	平均	SD
a. 英語による英語以外の授業	受講あり	必須	5694	2.10	1.37
		定期的&選抜制	784	2.20	1.35
		定期的&希望制	681	2.32	1.43
		不定期	556	2.01	1.31
		Subtotal	7715	2.12	1.37
	受講なし	必須	425	1.94	1.29
		定期的&選抜制	390	1.93	1.25
		定期的&希望制	553	1.92	1.21
		不定期	570	1.93	1.28
		Subtotal	1938	1.93	1.25
	Total		9653	2.08	1.35

第二の部分では、「b. 日本語でのディスカッション」、「c. 英語でのディスカッション」について見てみよう。この部分では、日本語と英語のディスカッションの頻度を聞いている。まず、日本語でのディスカッションが全体的に、英語でのディスカッションに比べ頻度が高いことがわかる。これは、「受講あり」、「受講なし」、どちらのケースにも当てはまる。次に、日本語でのディスカッションと英語でのディスカッションを「受講あり」、「受講なし」で見ていくと、「受講あり」の方が「受講なし」の生徒に比べ、頻度が高いことがわかる。続いて、日本語でのディスカッションについて、「受講あり」、「受講なし」の生徒両方において頻度が「時々ある」と回答しているのに対し、英語でのディスカッションを見ると、「受講なし」の生徒は、平均値が3以下で、「たまにある」に留まっていることがわかる。つまり、「受講あり」の生徒の方が英語でのディスカッションの機会が多い、ということである。

表4-2-b 学習方法（日本語および英語でのディスカッション）

			Q6. 学習方法 - 1		
			n	平均	SD
b. 日本語でのディスカッション	受講あり	必須	5700	3.43	1.22
		定期的&選抜制	785	3.47	1.19
		定期的&希望制	681	3.37	1.23
		不定期	556	3.18	1.26
		Subtotal	7722	3.41	1.23
	受講なし	必須	425	3.38	1.31
		定期的&選抜制	390	3.11	1.22
		定期的&希望制	553	3.16	1.23
		不定期	570	3.17	1.21
		Subtotal	1938	3.20	1.24
	Total		9660	3.37	1.23
c. 英語でのディスカッション	受講あり	必須	5697	3.00	1.36
		定期的&選抜制	785	3.24	1.24
		定期的&希望制	681	3.09	1.36
		不定期	556	2.90	1.33
		Subtotal	7719	3.02	1.35
	受講なし	必須	425	2.80	1.32
		定期的&選抜制	390	2.61	1.27
		定期的&希望制	553	2.71	1.29
		不定期	570	2.78	1.27
		Subtotal	1938	2.73	1.29
	Total		9657	2.96	1.34

第三の部分では、「d. 日本語でのグループワーク」、「e. 英語でのグループワーク」について見ていく。まず、日本語でのグループワークという設問において、「受講あり」と「受講なし」の生徒どちらも3.5を超える高い頻度（「時々ある」）で行っていることがわかる。その一方で、英語でのグループワークを見ると、「受講あり」の場合、平均値3は超えているものの、日本語でのグループワークに比べると頻度が低く、「受講なし」の生徒に関しては、3に満たないことがわかった（「たまにある」）。

表4-2-c 学習方法（日本語および英語でのグループワーク）

			Q6. 学習方法 - 1		
			n	平均	SD
d. 日本語でのグループワーク	受講あり	必須	5698	3.89	1.15
		定期的&選抜制	785	3.95	1.10
		定期的&希望制	681	3.75	1.17
		不定期	556	3.62	1.23
		Subtotal	7720	3.87	1.16
	受講なし	必須	425	3.73	1.20
		定期的&選抜制	390	3.56	1.15
		定期的&希望制	553	3.52	1.23
		不定期	570	3.52	1.22
		Subtotal	1938	3.58	1.21
	Total		9658	3.81	1.17
e. 英語でのグループワーク	受講あり	必須	5695	3.17	1.35
		定期的&選抜制	785	3.31	1.25
		定期的&希望制	681	3.19	1.33
		不定期	556	3.07	1.28
		Subtotal	7717	3.18	1.33
	受講なし	必須	425	2.91	1.36
		定期的&選抜制	390	2.74	1.26
		定期的&希望制	553	2.85	1.26
		不定期	570	2.94	1.29
		Subtotal	1938	2.87	1.30
	Total		9655	3.12	1.33

第四の部分では、「f. 日本語でのプレゼンテーション」、「g. 英語でのプレゼンテーション」についての設問である。図からは、まず、「受講あり」の生徒が受講なしの生徒と比べ、日・英語によるプレゼンテーションをすることが多いことがわかる。次に、日本語と英語を比べた際、日本語のほうが英語に比べ多いことがわかる。続いて、多くのケースで、平均値が3を超えているのに対し、英語のプレゼンテーションに関しては、「受講なし」の生徒が3未満であることがわかった（「たまにある」）。

表4-2-d 学習方法（日本語および英語でのプレゼンテーション）

			Q6. 学習方法 - 1		
			n	平均	SD
f. 日本語でのプレゼンテーション	受講あり	必須	5701	3.46	1.25
		定期的&選抜制	785	3.51	1.25
		定期的&希望制	681	3.40	1.23
		不定期	556	3.20	1.26
		Subtotal	7723	3.44	1.25
	受講なし	必須	425	3.23	1.27
		定期的&選抜制	390	3.14	1.20
		定期的&希望制	553	3.18	1.25
		不定期	570	3.18	1.21
		Subtotal	1938	3.18	1.24
	Total		9661	3.39	1.26
g. 英語でのプレゼンテーション	受講あり	必須	5697	2.99	1.38
		定期的&選抜制	785	3.30	1.23
		定期的&希望制	681	3.11	1.37
		不定期	556	2.89	1.31
		Subtotal	7719	3.02	1.36
	受講なし	必須	425	2.68	1.32
		定期的&選抜制	390	2.71	1.28
		定期的&希望制	553	2.71	1.27
		不定期	570	2.77	1.27
		Subtotal	1938	2.72	1.29
	Total		9657	2.96	1.35

第五の部分では、「h. 日本語でのレポート作成」、「i. 英語でのレポート作成」について見ていく。まず、日本語でのレポート作成は、「受講あり」、「受講なし」に限らず、どちらのケースでも平均3を超えており、比較的頻度が高いことがわかる。次に、英語のレポートを見ると、「受講あり」、「受講なし」両方の場合において、平均が3以下ということであって、相対的に頻度が比較的低いことがわかる。

表4-2-e 学習方法（日本語および英語でのレポート作成）

			Q6. 学習方法 - 1		
			n	平均	SD
h. 日本語でのレポート作成	受講あり	必須	5700	3.60	1.26
		定期的&選抜制	785	3.71	1.22
		定期的&希望制	681	3.62	1.24
		不定期	556	3.34	1.30
		Subtotal	7722	3.59	1.26
	受講なし	必須	425	3.37	1.28
		定期的&選抜制	390	3.31	1.31
		定期的&希望制	553	3.39	1.34
		不定期	570	3.28	1.28
		Subtotal	1938	3.34	1.31
	Total		9660	3.54	1.27
i. 英語でのレポート作成	受講あり	必須	5697	2.65	1.40
		定期的&選抜制	785	2.92	1.30
		定期的&希望制	681	2.87	1.39
		不定期	556	2.53	1.31
		Subtotal	7719	2.69	1.39
	受講なし	必須	425	2.43	1.34
		定期的&選抜制	390	2.41	1.27
		定期的&希望制	553	2.51	1.32
		不定期	570	2.56	1.31
		Subtotal	1938	2.49	1.32
	Total		9657	2.65	1.37

上記を総合的に見ると、学習方法で最も多いとされるのは、「日本語でのグループワーク」、「日本語でのレポート作成」であり、それに続いて、「日本語でのプレゼンテーション」、「日本語でのディスカッション」が挙げられる。最も少ないのは、英語による英語以外の授業であった。つまり、日本語でのアクティブラーニングは、比較的充実していることがわかるが、英語でのラーニングは、比較的少ないということである。大学に進学した場合、日本に限らず、多くの国・地域では、英語による英語以外の授業を受ける機会は年々増えている。また、英語でレポートを書いたり、プレゼンテーションをしたりといった授業も増加傾向にある。教育機関に限らず、企業で就職した後、そのような機会は多々あるということを想定すると、今後、このギャップを埋め、グローバル人材の育成を加速していくことが求められるのではないかと考える。

4-3. 学習方法

SGH プログラムを通して、以下1～7の様々なアクティブラーニングの方法を通じた学習を受けている機会について質問した（Q7.・複数回答可）

- 1 ロジカルシンキング（筋が通った考え方や説明の方法）
- 2 ディベート形式（異なる立場からの議論）
- 3 ディスカッション形式（自由に意見を述べ合う方法）
- 4 問題解決のための調査方法（データの取り方や分析の方法）
- 5 プレゼンテーション（資料の作り方、発表の仕方、質問への答え方）
- 6 レポートのまとめ方（形式や構成）
- 7 研究やレポートで、気を付けるべきガイドライン（著作権や引用のルール等）

表4-3 学習方法

			Q7. 学習方法 -2								回答者数
			ロジカルシンキング	ディベート形式	ディスカッション形式	問題解決のための調査方法	プレゼンテーション	レポートのまとめ方	研究やレポートで気を付けるべきガイドライン	左記はいずれも学んだことがない	
受講あり	必須	n 構成比	2737 48.1%	3993 70.1%	4405 77.4%	3210 56.4%	4801 84.3%	3819 67.1%	3083 54.1%	147 2.6%	5694
	定期的&選抜制	n 構成比	378 48.2%	591 75.3%	646 82.3%	453 57.7%	695 88.5%	546 69.6%	426 54.3%	11 1.4%	785
	定期的&希望制	n 構成比	320 47.1%	490 72.1%	523 76.9%	378 55.6%	589 86.6%	485 71.3%	384 56.5%	21 3.1%	680
	不定期	n 構成比	192 34.5%	353 63.5%	394 70.9%	251 45.1%	452 81.3%	353 63.5%	252 45.3%	24 4.3%	556
	Subtotal	n 構成比	3627 47.0%	5427 70.3%	5968 77.4%	4292 55.6%	6537 84.7%	5203 67.4%	4145 53.7%	203 2.6%	7715
受講なし	必須	n 構成比	157 36.9%	266 62.6%	302 71.1%	184 43.3%	318 74.8%	228 53.6%	167 39.3%	33 7.8%	425
	定期的&選抜制	n 構成比	108 27.7%	235 60.3%	260 66.7%	143 36.7%	281 72.1%	222 56.9%	146 37.4%	27 6.9%	390
	定期的&希望制	n 構成比	188 34.0%	333 60.2%	379 68.5%	220 39.8%	428 77.4%	339 61.3%	259 46.8%	40 7.2%	553
	不定期	n 構成比	178 31.2%	334 58.6%	376 66.0%	219 38.4%	428 75.1%	318 55.8%	219 38.4%	40 7.0%	570
	Subtotal	n 構成比	631 32.6%	1168 60.3%	1317 68.0%	766 39.5%	1455 75.1%	1107 57.1%	791 40.8%	140 7.2%	1938
Total		n 構成比	4258 44.1%	6595 68.3%	7285 75.5%	5058 52.4%	7992 82.8%	6310 65.4%	4936 51.1%	343 3.6%	9653

「受講あり」の生徒の最も多い学習方法はプレゼンテーションであり、それに続いて、ディスカッション形式、ディベート形式、レポートのまとめ方、であった。また、「受講あり」と回答した生徒の中で、不定期と選択した生徒が最も低い数値を出していた。

一方、「受講なし」の生徒の最も多い学習方法はプレゼンテーションであり、その他学習方法は、

「受講あり」の生徒と全く同じ順番であった。「受講なし」と答えた生徒の中で、低い数値を持つ生徒は、一つの部類に限らず、様々な部類（特に定期的&選択制、不定期）に分散していることがわかった。

以上の結果から、まず、「受講あり」、「受講なし」に関わらず、学習方法の頻度は非常に似ていることがわかった。最も頻度の多い学習法から少ない方法までの順番は以下の通りである：プレゼンテーション、ディスカッション形式、ディベート形式、レポートのまとめ方、問題解決のための調査方法、研究やレポートで気をつけるべきガイドライン、ロジカルシンキングである。

次に、「受講あり」と回答している生徒の中で、不定期を選んだ生徒は、各学習方法へのアクセスが相対的に低かった。一方で、「受講なし」と答えた生徒における各学習方法へのアクセスは、異なる部類（特に定期的&選択制や不定期）において、学習方法へのアクセスが低いということがわかった。

上記のデータからは、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートのアクティビティが増えている一方で、ロジカルシンキングや問題解決の調査方法などといった、グローバル人材の素養には欠かせないスキルを育成する学習方法が比較的少ないということがわかった。

第5章 学習活動への参加

国内外の8種類の学習活動について生徒の参加回数の設問（Q8.）について、頻度（0回～4回）を確認した結果、表5-1の通り、生徒が一番多く参加した学習活動は「各種英語検定試験対策講座」と「海外からの留学生との交流」であった。それぞれの参加回数は1.61回と1.22回であった。また、一番参加回数が低かった活動は3割近くしか参加しなかった「海外フィールド・ワーク」と「海外への修学旅行」であった。それぞれの参加回数は0.32回と0.34回であった。このように直接海外で行われる活動への参加が低い。

また、SGH受講している生徒は、SGH受講していない生徒と比較すると、8つの学習活動の内、7つの学習活動に多く参加していることがわかった。特に、参加回数の差が大きかった活動は「海外からの留学生との交流」と「国内フィールド・ワーク」であった。SGH受講している生徒のそれぞれの平均参加回数は1.31と1.0であるのに対し、SGH受講していない生徒のそれぞれの平均参加回数は0.84と0.56であった。SGHに受講している、していない生徒のそれぞれの平均参加回数の差は0.48回と0.43回であった。

唯一、SGH受講していない生徒の方（0.35）が、SGH受講している生徒（0.33）より参加が高かった学習活動は「海外への修学旅行」であった。しかし、SGU受講生と非SGU受講生徒の「海外への修学旅行」への参加回数はそれぞれ0.33と0.35と僅差であった。約3割の生徒が「海外への修学旅行」に参加したことになる。

表5-1 学習活動の平均参加回数： SGH受講生と非受講生

			Q8. 学習活動		
			n	平均	SD
A. 国内他高校との交流会	受講あり	必須	5699	0.65	1.12
		定期的&選抜制	788	0.97	1.30
		定期的&希望制	682	1.02	1.36
		不定期	552	0.67	1.15
		Subtotal	7721	0.71	1.17
	受講なし	必須	426	0.53	0.98
		定期的&選抜制	390	0.54	1.03
		定期的&希望制	553	0.49	0.99
		不定期	570	0.51	1.00
		Subtotal	1939	0.51	1.01
	Total		9660	0.68	1.14
B. コンテストへの参加	受講あり	必須	5701	0.52	1.06
		定期的&選抜制	788	0.62	1.16
		定期的&希望制	682	0.82	1.35
		不定期	552	0.74	1.29
		Subtotal	7723	0.58	1.12

	受講なし	必須	426	0.43	1.01
		定期的&選抜制	390	0.28	0.80
		定期的&希望制	553	0.28	0.79
		不定期	570	0.36	0.92
		Subtotal	1939	0.34	0.88
	Total		9662	0.53	1.08
C. 国内フィールドワーク	受講あり	必須	5705	0.97	1.28
		定期的&選抜制	788	1.26	1.37
		定期的&希望制	682	1.10	1.33
		不定期	552	0.79	1.22
		Subtotal	7727	1.00	1.29
	受講なし	必須	426	0.90	1.38
		定期的&選抜制	390	0.48	1.04
		定期的&希望制	553	0.46	0.96
		不定期	570	0.47	0.98
		Subtotal	1939	0.56	1.10
Total		9666	0.91	1.27	
d. 海外フィールドワーク	受講あり	必須	5700	0.31	0.72
		定期的&選抜制	788	0.55	0.90
		定期的&希望制	682	0.55	1.01
		不定期	552	0.32	0.76
		Subtotal	7722	0.35	0.78
	受講なし	必須	426	0.20	0.60
		定期的&選抜制	390	0.13	0.49
		定期的&希望制	553	0.17	0.56
		不定期	570	0.24	0.69
		Subtotal	1939	0.19	0.59
Total		9661	0.32	0.75	
e. 海外への修学旅行	受講あり	必須	5700	0.32	0.61
		定期的&選抜制	788	0.34	0.68
		定期的&希望制	682	0.48	0.83
		不定期	552	0.30	0.63
		Subtotal	7722	0.33	0.64
	受講なし	必須	426	0.32	0.72
		定期的&選抜制	390	0.26	0.57
		定期的&希望制	553	0.37	0.68
		不定期	570	0.42	0.76
		Subtotal	1939	0.35	0.69
Total		9661	0.34	0.65	
f. 海外研修	受講あり	必須	5698	0.36	0.71
		定期的&選抜制	788	0.62	0.90
		定期的&希望制	682	0.67	1.02
		不定期	552	0.41	0.76
		Subtotal	7720	0.42	0.78

	受講なし	必須	426	0.27	0.65	
		定期的&選抜制	390	0.24	0.62	
		定期的&希望制	553	0.26	0.64	
		不定期	570	0.32	0.69	
		Subtotal	1939	0.27	0.65	
	Total		9659	0.39	0.76	
g. 海外からの 留学生との交流	受講あり	必須	5701	1.23	1.39	
		定期的&選抜制	788	1.61	1.49	
		定期的&希望制	682	1.68	1.54	
		不定期	553	1.30	1.45	
		Subtotal	7724	1.31	1.43	
	受講なし	必須	426	0.84	1.24	
		定期的&選抜制	390	0.67	1.15	
		定期的&希望制	553	0.84	1.21	
		不定期	570	0.95	1.24	
		Subtotal	1939	0.84	1.22	
	Total		9663	1.22	1.40	
	h. 各種英語検定 試験対策講座	受講あり	必須	5708	1.63	1.64
			定期的&選抜制	788	1.67	1.64
			定期的&希望制	682	1.76	1.68
不定期			552	1.69	1.64	
Subtotal			7730	1.65	1.65	
受講なし		必須	426	1.46	1.55	
		定期的&選抜制	390	1.36	1.59	
		定期的&希望制	553	1.30	1.54	
		不定期	570	1.54	1.62	
		Subtotal	1939	1.42	1.58	
Total		9669	1.61	1.64		

さらに、海外研修に参加したことのある生徒にその訪問先の長い順番について質問した（Q8. 付問）。海外研修で一番多く海外研修で訪問された国は、オーストラリア、アメリカ、カナダ、シンガポール、ニュージーランドと英国であった。このようにトップ6の訪問先は、欧米大洋州の英語圏と英語が公用語の一つであるシンガポールであった。英語でコミュニケーションのできる国が研修先として選択されている。

次によく研修先として訪問された国は、アセアン諸国等であった。マレーシア、台湾、インドネシア、タイとフィリピンの順番でよく研修先として訪問された。

表 5-2 海外研修の訪問先

	Q8f. SQ. 海外研修訪問先					
	滞在期間 1 位	滞在期間 2 位	滞在期間 3 位	計	有効%	累積%
オーストラリア	576	98	16	690	17.7%	17.7%
アメリカ	418	107	22	547	14.1%	31.8%
カナダ	305	68	8	381	9.8%	41.6%
シンガポール	139	108	37	284	7.3%	48.9%
ニュージーランド	214	33	9	256	6.6%	55.5%
英国	170	50	4	224	5.8%	61.2%
マレーシア	75	57	19	151	3.9%	65.1%
台湾	91	26	6	123	3.2%	68.3%
インドネシア	44	46	5	95	2.4%	70.7%
タイ	60	26	8	94	2.4%	73.2%
フィリピン	48	33	11	92	2.4%	75.5%
ドイツ	65	21	3	89	2.3%	77.8%
オーストリア	62	14	2	78	2.0%	79.8%
アメリカ領サモア	59	13	5	77	2.0%	81.8%
ベトナム	44	19	10	73	1.9%	83.7%
中国	35	28	10	73	1.9%	85.5%
韓国	37	24	10	71	1.8%	87.4%
カンボジア	26	23	7	56	1.4%	88.8%
香港	18	20	7	45	1.2%	90.0%
フランス	20	2	4	26	0.7%	90.6%
その他	201	93	70	364	9.4%	100.0%
合計	2707	909	273	3889	100.0%	

さらに、海外からの留学生の出身地について、交流機会が多い順番に3つまで回答を求めたところ、一番多く交流した海外の留学生の出身国はやはり英語圏のアメリカとオーストラリアであった。しかし、前問の海外研修の訪問先に比べ、3番目から5番目に多く交流した留学生の出身国・地域は英語圏でない中国、ドイツと台湾であった。

表5-3 交流したことのある海外からの留学生の出身国

	Q8g. SQ. 留学生出身国					
	交流機会 1位	交流機会 2位	交流機会 3位	計	有効%	累積%
アメリカ	821	336	143	1300	13.2%	13.2%
オーストラリア	803	274	103	1180	12.0%	25.2%
中国	490	228	164	882	9.0%	34.2%
ドイツ	322	167	101	590	6.0%	40.2%
台湾	338	135	71	544	5.5%	45.8%
カナダ	224	127	54	405	4.1%	49.9%
アメリカ領サモア	212	85	41	338	3.4%	53.3%
インドネシア	154	111	65	330	3.4%	56.7%
タイ	167	111	51	329	3.3%	60.0%
フランス	149	106	59	314	3.2%	63.2%
英国	116	100	74	290	3.0%	66.2%
韓国	119	98	63	280	2.8%	69.0%
シンガポール	104	89	31	224	2.3%	71.3%
ニュージーランド	113	52	38	203	2.1%	73.4%
ベトナム	100	54	23	177	1.8%	75.2%
オーストリア	102	39	17	158	1.6%	76.8%
フィリピン	80	44	29	153	1.6%	78.3%
マレーシア	70	48	24	142	1.4%	79.8%
インド	41	54	40	135	1.4%	81.2%
イタリア	77	28	25	130	1.3%	82.5%
その他	776	534	411	1721	17.5%	100.0%
合計	5378	2820	1627	9825	100.0%	

第6章 SGH 受講期間・頻度

6-1. SGH 受講期間

(Q11. これまで、どのくらいの期間、SGH プログラム（講座）を受講していますか？)

Q10 にて「SGH 受講経験あり」と回答した生徒に対して、SGH 受講期間を尋ねた。以下、表 6-1 にその結果を示す。

表 6-1 SGH 受講期間 (Q11)

		Q11. SGH 受講期間（受講者のみ回答）					Total
		7 ヶ月未満	7 ヶ月～ 1 年未満	1 年～1 年 7 ヶ月未満	1 年7 ヶ月 ～2 年未満	2 年以上	
必須	n 構成比	2305 40.4%	722 12.7%	1188 20.8%	701 12.3%	786 13.8%	5702 100.0%
定期的&選抜制	n 構成比	225 28.6%	104 13.2%	230 29.3%	104 13.2%	123 15.6%	786 100.0%
定期的&希望制	n 構成比	251 36.9%	94 13.8%	161 23.6%	72 10.6%	103 15.1%	681 100.0%
不定期	n 構成比	295 53.1%	54 9.7%	116 20.9%	50 9.0%	41 7.4%	556 100.0%
Total	n 構成比	3076 39.8%	974 12.6%	1695 21.9%	927 12.0%	1053 13.6%	7725 100.0%

「Q11. SGH 受講期間」については、およそ4割の3,076 名が「7 ヶ月未満」と回答しており、SGH プログラム受講を始めてからまだ間もない生徒であった。これに「7 ヶ月～1 年未満」も加えると、SGH 受講開始以降、1 年に満たない生徒が4,050 名（52.4%）と SGH 受講生全体の半数を超える。このことから、受講期間が比較的短い生徒が多く、この調査に参画していることがわかる。

6-2. SGH 受講頻度

(Q12. 平均すると1週間に何回くらい、SGH プログラム（講座）を受講していますか？)

同様に、SGH 受講経験がある生徒に対して、週当たりの SGH プログラム受講頻度を質問した。回答結果を表 6-2 に示す。

表 6-2 SGH 受講頻度 (Q12)

		Q12. SGH 受講頻度 / 週 (受講者のみ回答)				Total
		1 回以下	2 回	3 回	4 回以上	
必須	n 構成比	3510 61.5%	1610 28.2%	242 4.2%	341 6.0%	5703 100.0%
定期的&選抜制	n 構成比	448 57.0%	261 33.2%	36 4.6%	41 5.2%	786 100.0%
定期的&希望制	n 構成比	470 69.0%	170 25.0%	19 2.8%	22 3.2%	681 100.0%
不定期	n 構成比	463 83.3%	58 10.4%	13 2.3%	22 4.0%	556 100.0%
Total	n 構成比	4891 63.3%	2099 27.2%	310 4.0%	426 5.5%	7726 100.0%

こちら、4,891 名 (63.3%) の生徒が 1 週間に 1 回以下、2,099 名 (27.2%) の生徒が 1 週間に 2 回の頻度と回答しており、両者を合わせると、1 週間に 2 回以下の受講頻度の生徒が 6,990 名 (90.5%) と、9 割以上を占める結果となった。

他方、1 週間に 1 回以下の頻度の割合は、SGH 受講形態が定期的かつ希望制の場合は 69.0%、不定期の場合は 83.3% だが、必須の場合は 61.5%、定期的かつ選抜制の場合は 57.0% と比較的低い割合となる。全員に必須、または選抜した生徒にとって必須という形態の方が、SGH 受講頻度が高まることが示唆されている。

第7章 SGH プログラムの後輩への推奨意図に影響する要因の探索

SGH 受講生 7,727 名に対して、後輩に SGH 受講を勧めるかという設問（Q13）について 5 件法（1：「ぜひ勧めたい」～5：「勧めない」）により質問した。これは、消費者行動理論では、本人の受けたサービスに対する満足度を測定する項目として用いられる設問である。従って、この指標がどのような要因で定まっているかを示すことは、受講生の支持を受ける SGH プログラムか否かに関する仮説を探索したことに相当する。

この際、受講推奨意図に関係する受講者の背景要因として、Q1a. 年齢、Q1b. 学年、Q1c. 性別、Q1d. 学校制（男女共学校か女子校か男子校か）、Q1e. 海外経験の有無、Q1f. 海外経験有の場合の通算何カ国行ったか、Q1g. 海外通算生活期間、Q9. SGH プログラムの実施状況を機械的に投入した。また、受講者の高校教育体験に関わる要因として、Q5. 日本人高校教諭以外の先生による講義体験の有無、Q6. 日本語授業以外の学習方法体験の頻度、Q7. 特別な学習方法を取り入れた授業体験の有無、Q8. 学習活動を体験した頻度、全ての設問項目を候補要因として投入した。

SGH 受講経験のある 7,727 名の生徒に対して、受講推奨促進に最も寄与していることが樹形モデル探索で導かれたのは、表 7-1 に示すように、第一が Q6c. 「英語でのディスカッション」に対して、「よくある」あるいは、「非常に多い」と応えた群であった。また、英語のディスカッションが活発でない群、すなわち「まったくない」、「たまにある」、「時々ある」と回答した生徒でも、Q6d. 「日本語でのグループワーク」が、「よくある」あるいは「非常に多い」と応えている場合は、推奨意図が強くなることが示された。

実際、表 7-1 によれば、英語討論が活発なプログラムでの SGH プログラム推奨意図は、「勧めたい」、「ぜひ勧めたい」で 66.1%、英語討論が活発ではないが、日本語グループ学習が活発な場合には、推奨意図は、58.9%なのに対して、どちらも活発ではない群では、推奨意図は 46.3%と 10 から 20 ポイント低下する。逆に非推奨（「勧めない」、「あまり勧めない」）意図を有する生徒については、英語討論が活発な群、英語は活発ではないが日本語グループ学習は活発な群で、それぞれ 11.4%、11.6% とほぼ等しいのに対して、いずれも活発ではない群については、18.4%と増大している。

SGH プログラムに対する生徒の満足は、英語での討論や日本語でのグループ学習などのアクティブラーニングが活性化することによって強化されると考えられる。

なお、本章では、探索的分析のツールとして、人工知能あるいは統計的機械学習技法としても知られている「樹形モデル」当てはめを統計分析ソフトウェア R の rpart 関数（Recursive Partition）を用いて Q13. に影響を与えている要因とその層別方法を自動的に抽出した。

表7-1 SGH プログラム推奨意図への主要影響要因

英語討論 日本語グループワーク 活発か否か	SGH プログラム推奨					合計
	勧めない	あまり 勧めない	どちらとも 言えない	勧めたい	ぜひ 勧めたい	
英語討論 活発 よくある・非常に多い	188 6.2%	156 5.2%	675 22.4%	958 31.8%	1032 34.3%	3009
英語討論 活発でない 日本語グループワーク 活発 よくある・非常に多い	140 5.1%	179 6.5%	819 29.6%	968 35.0%	661 23.9%	2767
英語討論・ 日本語グループワーク 共に非活発	185 9.5%	173 8.9%	688 35.3%	555 28.4%	350 17.9%	1951
合計	513 6.6%	508 6.6%	2182 28.2%	2481 32.1%	2043 26.4%	7727

第8章 自由記入欄の分析

8-1. 質問内容

本章では、自由記入質問欄の回答を分析する。質問は、4つであり、①よかったところ、②改善した方がよいところ、③役にたったプログラム、④追加すると良いと思われるプログラムである。なお、分析に利用した回答の文字数は、それぞれ、①11万4461文字、②6万9660文字、③3万6942文字、④2万5829文字である。

8-2. 分析手順の概要

自由記入欄の分析においては、以下の手順で実施した。

- (1) 形態素解析を実施。

分析ツールとしてKH Coder¹を利用した。また、形態素解析ソフトにはKH Coderを通じて茶筌を利用した。

- (2) 品詞別頻出キーワード、および共起ネットワーク図を作成。

主要な概念を抽出。

- (3) ①②に対しては、概念の中の主要なキーワードについて関連語および回答例を抽出し、表に整理。

また、③④に対しては、共起ネットワーク上からプログラムに相当するものを抽出。

なお、分析は、①②③④ごとに実施した。

1 樋口耕一、社会調査のための計量テキスト分析、ナカニシヤ出版、2014.

8-3. 分析結果

①質問内容：よかったところ

(① - 1) 頻出キーワード

表8-3-1に、各品詞における上位50の頻出キーワードを表記する。

表8-3-1 頻出キーワード 上位50（よかったところ）

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能		未知語		動詞		形容詞		副詞	
自分	611	交流	256	様々	282	たくさん	203	プレゼン	111	知る	510	多い	145	実際	58
海外	477	意見	255	いろいろ	130	普段	151	SGH	95	考える	399	楽しい	70	特に	37
機会	337	経験	205	さまざま	100	今	143	APU	8	学べる	295	詳しい	63	少し	34
英語	318	話	176	普通	70	将来	112	I	6	思う	204	良い	62	改めて	19
世界	316	授業	163	貴重	63	多く	50	PowerPoint	5	学ぶ	203	深い	58	初めて	12
視野	245	研究	110	グローバル	51	ほか	36	With	5	聞く	190	広い	42	沢山	10
外国	222	解決	108	色々	48	前	33	A	4	知れる	177	安い	32	仲良く	9
文化	175	体験	101	必要	35	時間	26	could	4	広がる	171	新しい	25	全く	8
視点	163	研修	100	大切	32	現在	18	JICA	4	聞ける	161	面白い	25	本当に	8
興味	157	発表	93	身近	27	直接	13	to	4	増える	144	難しい	16	同時に	5
プレゼンテーション	149	活動	88	新た	19	自ら	12	SGH	4	持つ	110	無い	16	堂々	5
能力	139	お話	81	非常	16	それぞれ	11	have	3	触れる	96	高い	12	色々	4
物事	137	レポート	70	重要	12	絶対	10	ICT	3	調べる	96	少ない	9	必ず	4
知識	126	講演	66	好き	11	以前	9	The	3	話す	91	大きい	9	ある程度	3
大学	121	参加	57	生	11	全体	9	word	3	向ける	90	幅広い	9	互いに	3
国際	116	向上	56	有意義	11	いま	8	コミュニケーション	3	得る	86	強い	8	決して	2
考え方	112	作成	54	自由	10	ひとつ	7	about	2	受ける	85	興味深い	6	今まで	2
社会	109	生活	48	多様	10	今後	7	and	2	行く	81	早い	5	最も	2
考え	91	ディスカッション	47	真剣	9	すべて	5	communicate	2	見る	76	正しい	4	時に	2
地域	91	学習	45	平和	8	一番	3	ENGLISH	2	出来る	75	優しい	4	実に	2
グループ	88	理解	44	明確	7	結果	3	excel	2	行う	51	嬉しい	3	常に	2
企業	77	思考	42	疑問	6	最近	3	Global	2	持てる	50	上手い	3	普通	2
積極	77	活躍	40	自然	6	本来	3	good	2	行ける	48	素晴らしい	3	カッ	1
課題	74	検	39	得意	6	毎週	3	iPad	2	違う	47	悪い	2	スラスラ	1
先生	72	勉強	39	きれい	5	ふだん	2	learn	2	伝える	46	偉い	2	意外と	1
方法	68	プログラム	35	可能	5	近く	2	many	2	役に立つ	46	近い	2	一応	1
分野	67	ディベート	33	確実	5	今回	2	more	2	役立つ	46	細かい	2	一層	1
留学生	66	意識	30	大変	5	場合	2	Nothing	2	感じる	45	短い	2	一度	1
フィールドワーク	64	協力	30	苦手	4	大体	2	of	2	使う	45	低い	2	何で	1
学校	61	話し合い	27	新鮮	4	日頃	2	people.	2	広げる	44	いち早い	1	何より	1
現状	58	講義	26	大事	4	いつ	1	s	2	分かる	42	悪い	1	何故	1
コミュニケーション	57	受講	26	著名	4	この先	1	student.	2	来る	36	遠い	1	結構	1
関心	55	会話	22	頻繁	4	その後	1	WFP	2	関わる	35	温かい	1	更に	1
方々	52	交換	21	豊富	4	以上	1	アカデミックライティング	2	付く	34	甘い	1	再度	1

論理	43	仕事	21	有名	4	一生	1	アクティブ ラーニング	2	出る	33	恐ろしい	1	次第に	1
テーマ	42	調査	21	有利	4	一生懸命	1	クラスメイト	2	上がる	30	軽い	1	自ら	1
情報	42	発見	20	ネイティブ	3	一部	1	スピーキング	2	変わる	29	固い	1	徐々に	1
高校	41	収集	17	リアル	3	各自	1	パワボ	2	話せる	29	若い	1	数多く	1
高校生	41	活用	16	ロジカル	3	休日	1	フィールド トリップ	2	深める	28	重い	1	全然	1
論文	41	議論	16	柔軟	3	昨今	1	ライティング	2	住む	27	凄い	1	早くから	1
他国	39	実践	16	スムーズ	2	事実	1	レインフォ レストア ライアンス	2	起こる	26	浅い	1	大いに	1
グローバル	38	練習	16	格段	2	時期	1	試	2	見つける	24	善い	1	大分	1
国内	38	行動	15	楽	2	従来	1	#NAME?	1	書く	24	尊い	1	単に	1
価値	37	発言	15	簡潔	2	生涯	1	AI	1	高まる	23	遅い	1	日ごろ	1
環境	34	訪問	15	気軽	2	昔	1	AIU	1	話し合う	23	長い	1	漠然と	1
生徒	34	観光	14	光栄	2	全て	1	AO	1	取り組む	22	珍しい	1	比較的	1
職業	31	関係	14	困難	2	短時間	1	can	1	深まる	20	熱い	1	減多に	1
クラス	29	参考	14	主	2	長期間	1	chance	1	見れる	19	粘り強い	1	目の当たり	1
友達	29	改善	13	上手	2	当時	1	class.	1	言う	19	貧しい	1		
自身	27	共有	13	親身	2	日々	1	countries	1	言える	17	嬉しい	1		



(① - 3) 主要な概念の整理

表 8-3-2 主要な概念（よかったところ）

番号	主要な概念	キーワード	関連語（注1）	文章例（注2）
1	自分の考えや意見の確立。 （自己、自我の確立）	自分 意見 考え 視野 広がる 興味	[自分] 1 意見 サ変名詞 219 (0.063) 115 (0.214) 0.1791 2 知る 動詞 437 (0.125) 115 (0.214) 0.1337 3 考える 動詞 352 (0.101) 92 (0.171) 0.1153 4 人 名詞 C 386 (0.111) 92 (0.171) 0.1106 5 思う 動詞 183 (0.053) 70 (0.130) 0.1075	[自分] 自分自身にも問題設定、解決などの力がついた 留学生と交し、自分の中の価値観や世界観が変わった 自分の知識を増やすことができた 自分の意見を確立できるようになった 失敗を恐れずに自分 の考えを言えるようになった
2	多様な視点で考えられる。 （多様性）	視点 考える 様々 解決	[様々] 1 視点 名詞 158 (0.045) 50 (0.182) 0.1305 2 問題 ナイ形容 349 (0.100) 57 (0.207) 0.1005 3 知る 動詞 437 (0.125) 55 (0.200) 0.0837 4 考える 動詞 352 (0.101) 46 (0.167) 0.0792 5 人 名詞 C 386 (0.111) 48 (0.175) 0.0783	[様々] 海外の様々な文化に触れることができた 海外に行きやすくなり、様々な体験ができるようになった 様々なフィールドワークに参加できた 世界の様々な問題を知り、解決策を考えることができた 他国の視点など様々な方向から物事を考えるようになった
3	英語を用いて交流できる。 （英語によるコミュニケーション）	英語 外国 交流 文化 機会	[英語] 1 機会 名詞 318 (0.091) 74 (0.274) 0.1440 2 増える 動詞 137 (0.039) 40 (0.148) 0.1090 3 使う 動詞 41 (0.012) 30 (0.111) 0.1068 4 触れる 動詞 91 (0.026) 31 (0.115) 0.0939 5 外国 名詞 206 (0.059) 38 (0.141) 0.0868	[英語] 様々な国の人と英語でコミュニケーションがとれ、自信がついた 英語への関心が高まった 留学生と共に英語で講義を受けた 日頃の英語教育とは異なり、授業の進め方が柔軟だった 英語でのプレゼンテーションなど貴重な体験ができた
4	プレゼンテーション力が向上した。 （意見の伝達力）	コミュニ ケーショ ン プレゼン テーショ ン 向上	[向上] 1 能力 名詞 114 (0.033) 26 (0.542) 0.1912 2 コミュニケーション 名詞 56 (0.016) 11 (0.229) 0.1183 3 プレゼンテーション 名詞 144 (0.041) 17 (0.354) 0.0971 4 技術 名詞 14 (0.004) 4 (0.083) 0.0690 5 経済 名詞 22 (0.006) 4 (0.083) 0.0606	[プレゼンテーション] プレゼンテーションなどの、伝える力をみにつけられた プレゼンテーションやレポートの書き方を教えてもらえた プレゼンテーションの進め方を学んだ 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶことができた 人前でプレゼンテーションをすることによって自信を持てるようになった
5	論理思考が身に付いた。 （論理思考）	論文 作成 論理 思考 役立つ	[論理] 1 思考 サ変名詞 41 (0.012) 24 (0.558) 0.4000 2 身 名詞 C 137 (0.039) 13 (0.302) 0.0778 3 育成 サ変名詞 5 (0.001) 3 (0.070) 0.0667 4 論文 名詞 39 (0.011) 5 (0.116) 0.0649 5 ディベート サ変名詞 33 (0.009) 4 (0.093) 0.0556	[論理] 論理的な思考力が身についた 物事を論理的また客観的に分析する能力がついた 資料やデータを基に論理的に考えるところ 論理的な思考力や価値観の違う人との意思疎通の仕方を習得できた 社会に出でも活用できる論理的な思考を身にすることができた

(注1) 関連語における数値は、左から、対象のキーワードが文章の全体の中でいくつの文章に登場したか、指定した条件の中でいくつの文章に登場したか、結果を並べる順位を決定するときに利用した Jaccard 距離である。なお、カッコ内は確率を示している。

(注2) 意味が変わらない範囲で表現を修正。

(① - 4) 考察

分析の結果、生徒は SGH プログラムを受講してよかったこととして、次のようなことがあげられる。

1. 視野が広がり、自分の考えや意見を確立することができたこと。
これは、生徒個人の自我の成長につながる内容である。
2. 多様性にふれ、多様な視点で考えることができるようになった。
これは、生徒の考えの多様性に貢献したといえる。
3. 英語を用いて交流できるようになった。
4. プレゼンテーション力が向上した。
5. 論理的思考が向上した。

研究、論文作成などを通して、論理的思考が向上したといえる。

②質問内容：改善した方がよいところ

(② - 1) 頻出キーワード

表 8-3-3 に、各品詞における上位 50 のキーワードを表記する。

表 8-3-3 頻出キーワード 上位 50 (改善した方がよいところ)

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能		未知語		動詞		形容詞		副詞	
英語	201	授業	260	必要	45	時間	309	SGH	200	思う	363	多い	188	特に	240
生徒	171	活動	164	大変	21	前	34	S G H	28	増やす	180	少ない	117	もう少し	137
海外	129	プログラム	119	無駄	21	ほか	24	プレゼン	16	聞く	61	良い	63	少し	29
先生	102	参加	119	明確	20	今	24	SG	13	行う	59	難しい	62	実際	27
内容	101	研究	108	中途半端	16	たくさん	19	モチベーシ ョン	6	考える	56	大きい	29	全く	16
機会	97	研修	67	自由	14	場合	16	FW	5	受ける	51	短い	29	多々	13
自分	95	交流	65	十分	13	時期	14	English	4	感じる	50	長い	21	本当に	12
課題	91	説明	56	苦手	12	すべて	13	I	4	使う	45	忙しい	18	結構	5
学校	74	勉強	54	非常	12	全体	12	to	4	行く	37	楽しい	15	ある程度	4
グループ	69	講演	53	急	11	結局	11	Have	3	知る	37	無い	15	全然	4
テーマ	67	話	53	グローバル	10	多く	11	TA	3	分かる	34	悪い	14	一度	3
全員	64	理解	50	様々	10	一部	10	The	3	決める	32	高い	14	時々	3
興味	61	学習	49	重要	9	将来	9	クオリティ	3	終わる	32	深い	14	突然	3
講座	60	発表	47	身近	9	それぞれ	8	GI	2	言う	31	低い	14	更に	2
論文	56	負担	42	正直	9	全部	8	GS	2	学ぶ	28	欲しい	13	少なくとも	2
回数	43	レポート	41	大切	9	普段	8	more	2	取り組む	28	詳しい	12	前もって	2
外国	40	意見	40	普通	9	結果	7	SDG	2	教える	25	遅い	12	多少	2
目的	38	希望	40	いろいろ	8	今後	7	should	2	進める	25	面白い	12	沢山	2
積極	36	受講	40	おろそか	7	初め	7	speak	2	調べる	25	厳しい	11	漠然と	2
期間	34	テスト	32	不十分	7	全て	6	think	2	話す	25	眠い	11	ぼーっと	1
フィールド ワーク	33	受験	31	可能	6	土曜日	6	Wi - Fi	2	持つ	24	浅い	9	ガラガラ	1
やる気	30	意味	30	主	6	現在	5	アクティビ ティ	2	足りる	24	狭い	8	バタバタ	1
クラス	28	強制	30	無理	6	当たり	5	アクティブ ラーニング	2	出る	22	激しい	7	バラバラ	1
具体	26	計画	29	綿密	6	毎回	5	スカイプ	2	書く	22	薄い	6	バンバン	1
個人	25	ディスカッ ション	28	圧倒的	5	土曜	4	試	2	違う	20	強い	5	ピン	1
情報	24	選択	27	頻繁	5	毎週	4	all	1	向ける	17	広い	5	意外と	1
分野	24	提出	27	平等	5	はじめ	3	ALT	1	取り入れる	17	細かい	5	一気に	1
高校生	23	講義	24	有効	5	各自	3	and	1	取る	17	早い	4	一層	1
部活	22	改善	23	曖昧	5	昨年度	3	any	1	減らす	16	軽い	3	何かと	1
グローバル	21	解決	22	疑問	4	多数	3	AO	1	行ける	16	辛い	3	何でもかん でも	1
人数	21	準備	22	好き	4	途中	3	APU	1	出す	16	濃い	3	何より	1
世界	21	両立	21	雑	4	当初	3	be	1	入る	16	幅広い	3	果たして	1
大学	21	関係	19	大幅	4	本来	3	both__	1	役に立つ	16	物足りない	3	既に	1
高校	20	作成	19	不利	4	毎年	3	CBL	1	作る	15	偉い	2	急遽	1
国際	20	調査	18	あいまい	3	あと	2	chances	1	進む	15	近い	2	極力	1
予算	20	実践	16	あやふや	3	いつ	2	class.	1	関わる	14	堅苦しい	2	細々	1
レベル	19	予定	16	活発	3	ひとつ	2	classes_I	1	設ける	14	重い	2	思いっきり	1
教師	19	教育	14	気軽	3	一番	2	d	1	入れる	14	上手い	2	時に	1

第8章 自由記入欄の分析

スケジュール	18	設定	13	公平	3	休日	2	difficult	1	減る	13	新しい	2	時には	1
プレゼンテーション	18	話し合い	13	新た	3	自ら	2	do	1	限る	13	正しい	2	実に	1
放課後	18	経験	12	大事	3	朝	2	don	1	見る	12	恥ずかしい	2	終始	1
環境	17	指導	12	得意	3	年々	2	Dream	1	深める	12	怖い	2	初めて	1
企業	17	体験	12	不安	3	12月	1	DVD	1	伝える	12	遠い	1	徐々に	1
ワーク	16	作業	11	不透明	3	その他	1	Excel	1	与える	12	押しつけがましい	1	常に	1
講師	16	実施	11	有意義	3	一時	1	foreigners.	1	触れる	11	寒い	1	切に	1
定期	16	不足	11	ルーズ	2	一時期	1	from	1	見える	10	気持ちよい	1	早くから	1
頻度	16	サポート	10	円滑	2	遠く	1	fuck	1	削る	10	興味深い	1	多分	1
一つ	15	意識	10	確か	2	夏	1	give	1	持てる	10	苦しい	1	大体	1
教科	15	選抜	10	確実	2	去年	1	Global	1	呼ぶ	9	堅い	1	直に	1
方法	15	担当	10	完全	2	近年	1	GLS	1	取り組める	9	慌ただしい	1	到底	1

(② - 2) 共起ネットワーク

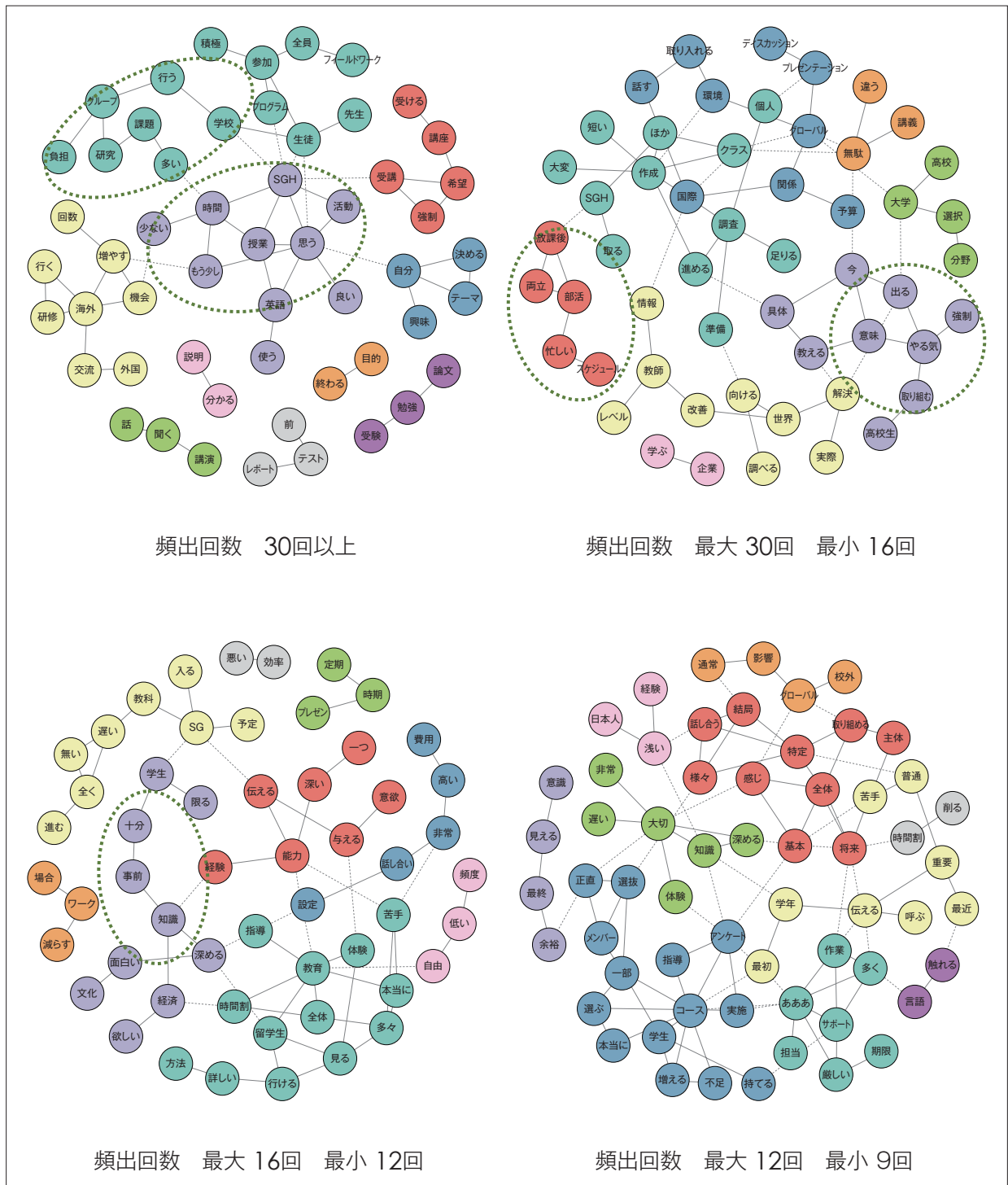


図 8-3-2 共起ネットワーク (改善した方がよいところ)

(2) - 3) 主要な概念の整理

表 8-3-4 頻出キーワード 上位 50 (改善した方がよいところ)

番号	主な概念	キーワード	関連語 (注 1)	文章例 (注 2)
1	時間が少ない。	時間 少ない	[時間] 1 授業 サ変名詞 221 (0.089) 56 (0.217) 0.1324 2 少ない 形容詞 117 (0.047) 37 (0.143) 0.1095 3 多い 形容詞 176 (0.071) 36 (0.140) 0.0905 4 もう少し 副詞 136 (0.055) 32 (0.124) 0.0884 5 SGH 未知語 173 (0.070) 33 (0.128) 0.0829	[時間] 実験まで含めると研究の時間が少ないと思う 授業以外でなかなか時間がとれない 熟考するための時間がたりない 多くのことを習っているの、一つ一つの時間が短くなってしまう プログラムに使える時間が中途半端だと思う
2	何かが多すぎる。	多い	[多い] 1 課題 名詞 84 (0.034) 29 (0.165) 0.1255 2 時間 副詞可能 258 (0.104) 36 (0.205) 0.0905 3 授業 サ変名詞 221 (0.089) 29 (0.165) 0.0788 4 生徒 名詞 143 (0.058) 21 (0.119) 0.0705 5 活動 サ変名詞 132 (0.053) 20 (0.114) 0.0694	[多い] 話をしてもらったタイプの授業が多いと思う 限られた時間の中で、やらなくてはいけないことが多い 研究後のレポートなど、提出物が多い 講演などで専門用語が多く、理解できないことがある 似たような内容の講演が多い
3	部活、勉強などとの両立。	受験 部活 両立	[両立] 1 部活 名詞 21 (0.008) 8 (0.381) 0.2353 2 勉強 サ変名詞 52 (0.021) 9 (0.429) 0.1406 3 難しい 形容詞 59 (0.024) 8 (0.381) 0.1111 4 程度 名詞 3 (0.001) 2 (0.095) 0.0909 5 普段 副詞可能 8 (0.003) 2 (0.095) 0.0741	[両立] SGH の活動と部活動の両立が難しい 普通の教科とうまく両立できるようなプログラムにしてほしい 勉強との両立を重視すべき 勉強、部活との両立が難しい 大学受験との両立が難しい
4	モチベーション	やる気 強制	[やる気] 1 メンバー 名詞 10 (0.004) 3 (0.115) 0.0909 2 意味 サ変名詞 29 (0.012) 4 (0.154) 0.0784 3 生徒 名詞 143 (0.058) 12 (0.462) 0.0764 4 旅行 サ変名詞 3 (0.001) 2 (0.077) 0.0741 5 出る 動詞 19 (0.008) 3 (0.115) 0.0714	[やる気] やる気のある生徒とない生徒の差が大きい グループにやる気のない人がいると、みんなのやる気が下がる やる気のない人がいると雰囲気に流される やる気のある人間だけが受講できるようにしたほうが良い 先生にやる気があっても、生徒にやる気がないと意味がない
5	事前知識	事前 知識	[事前] 1 学習 サ変名詞 46 (0.019) 5 (0.357) 0.0909 2 知識 名詞 11 (0.004) 2 (0.143) 0.0870 3 十分 形容動詞 13 (0.005) 2 (0.143) 0.0800 4 思いとどまる 動詞 1 (0.000) 1 (0.071) 0.0714 5 向き合う 動詞 1 (0.000) 1 (0.071) 0.0714	[事前] 事前学習の機会を設けてほしい 事前準備として予習があればさらに理解が深まると思う フィールドワークの事前学習をもっとしておきたかった 訪問国の知識をもっと事前に学習しておくよかった やる内容を事前に知らせてほしい

(注 1) 関連語における数値は、左から、対象のキーワードが文章の全体の中でいくつの文章に登場したか、指定した条件の中でいくつの文章に登場したか、結果を並べる順位を決定するとき
に利用した Jaccard 距離である。なお、かっこ内は確率を示している。

(注 2) 意味が変わらない範囲で表現を修正。

(b-4) 考察

分析の結果、生徒は改善のポイントとして、以下の点を挙げている。

1. プログラムに費やせる時間が少ない。
2. 話を聞く講座、制約、提出物などが、多すぎると感じている。
3. テスト、部活、受験などとの両立が難しいと感じている。
4. 生徒により、モチベーションに差があり、そのことが課題になっている。
5. 事前知識を習得する機会がもっとあった方がよいと感じている。

③質問内容：役に立ったプログラム

(③ -1) 頻出キーワード

表7-3-5に、各品詞における上位50の頻出キーワードを表記する。

表8-3-5 頻出キーワード 上位50 (役に立ったプログラム)

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能		未知語		動詞		形容詞		副詞	
海外	276	研修	350	様々	16	すべて	19	プレゼン	69	思う	50	多い	12	特に	126
フィールドワーク	181	交流	170	いろいろ	10	たくさん	16	SGH	38	学ぶ	39	良い	11	実際	31
プレゼンテーション	141	講演	136	さまざま	7	今	15	APU	19	知る	37	無い	10	初めて	4
英語	130	プログラム	108	大切	7	将来	14	JICA	17	聞く	35	楽しい	7	本当に	3
大学	117	ディベート	98	貴重	6	全て	11	SDGs	17	考える	30	難しい	7	カッ	2
講座	83	研究	82	非常	5	全部	9	SDG	15	行く	27	深い	5	全然	2
留学生	69	授業	71	必要	5	前	7	サービスラーニング	11	行う	26	詳しい	4	中でも	2
企業	67	発表	69	平和	4	直接	7	Global	8	役に立つ	23	短い	4	同時に	2
自分	63	講義	57	自由	3	今後	6	Simulation	7	作る	17	面白い	4	ある程度	1
外国	57	作成	50	新鮮	3	時間	5	ー	7	聞ける	16	興味深い	3	もう少し	1
国際	54	訪問	50	身近	3	現在	4	フィールドトリップ	7	学べる	15	新しい	3	何とも	1
先生	51	話	45	大変	3	普段	4	ライティング	7	招く	15	大きい	3	改めて	1
課題	50	レポート	44	得意	3	全体	3	G	6	使う	13	安い	2	強いて	1
論文	46	ディスカッション	41	アカデミック	2	多く	3	You	6	受ける	13	強い	2	時々	1
国内	42	お話	34	ロジカル	2	その後	2	パラグラフィティング	6	調べる	13	素晴らしい	2	少し	1
教授	41	経験	32	确实	2	それぞれ	2	ピアサポート	6	来る	12	悪い	1	色々	1
地域	38	模擬	26	苦手	2	一番	2	ENGLISH	5	教える	11	近い	1	必ずしも	1
文化	36	解決	25	色々	2	夏	2	FW	5	見る	11	広い	1	普通	1
社会	35	活動	25	著名	2	結果	2	Gaming	5	書く	11	細かい	1	目の当たり	1
グローバル	33	学習	24	特別	2	時期	2	GLS	5	知れる	11	少ない	1		
グループ	27	参加	21	普通	2	初め	2	in	5	感じる	10	上手い	1		
ビジネス	27	意見	20	有意義	2	毎回	2	ブレインストーミング	5	話す	10	早い	1		
プラン	24	進出	15	有名	2	いつ	1	レインフォレストアライアンス	5	役立つ	9	粘り強い	1		
機会	24	思考	14	グローバル	1	いま	1	cause & result	4	持つ	8	貧しい	1		
書き方	24	旅行	14	メンタル	1	はじめ	1	G30	4	働く	8				
方法	24	検	12	偉大	1	ひとつ	1	GSG	4	出来る	7				
方々	23	指導	12	温暖	1	ほか	1	SFO	4	決める	6				
イングリッシュ	21	体験	12	簡単	1	各自	1	Societal	4	得る	6				
キャンプ	21	インタビュー	11	孤独	1	去年	1	S G H	4	違う	5				
セミナー	21	ストック	11	幸せ	1	後々	1	グローバルサマーフェスタ	4	取り組む	5				
現地	20	見学	11	高大	1	今回	1	スタディーツアー	4	進める	5				
世界	20	講話	11	豪華	1	最近	1	Camp	3	関わる	4				
サマー	18	調査	11	細か	1	次第	1	CBL	3	言える	4				

第8章 自由記入欄の分析

生徒	17	連携	11	自然	1	自ら	1	For	3	向ける	4				
テーマ	16	活躍	10	重要	1	短時間	1	GCP	3	住む	4				
外部	16	関係	10	新た	1	等々	1	JAICA	3	伝える	4				
高校生	16	発見	10	生	1	日々	1	LEE	3	分かる	4				
情報	16	理解	10	前向き	1	毎週	1	SP	3	覚える	3				
チーム	15	交換	9	多様	1			writing	3	広がる	3				
プロジェクト	15	留学	9	大量	1			APU	3	思い当たる	3				
ポイント	15	スピーチ	8	端的	1			ぶ	3	思える	3				
県立	15	会議	8	中途半端	1			よ	3	持てる	3				
講師	15	作文	8	丁寧	1			アカデミック クライティ ング	3	集める	3				
分野	15	練習	8	同じ	1			インテンシブ トレーニング キャンプ	3	出る	3				
コンテスト	14	講習	7	独自	1			パワボ	3	述べる	3				
パワー	14	講和	7	悲惨	1			レインフォ レスト	3	触れる	3				
ポスター	14	紹介	7	不安	1			(Global	2	深める	3				
学校	14	貿易	7	不得意	1			ALT	2	進む	3				
興味	14	デザイン	6	無力	1			etc	2	変える	3				
語学	14	リレー	6	明確	1			Excel	2	訪れる	3				

(③ - 2) 共起ネットワーク

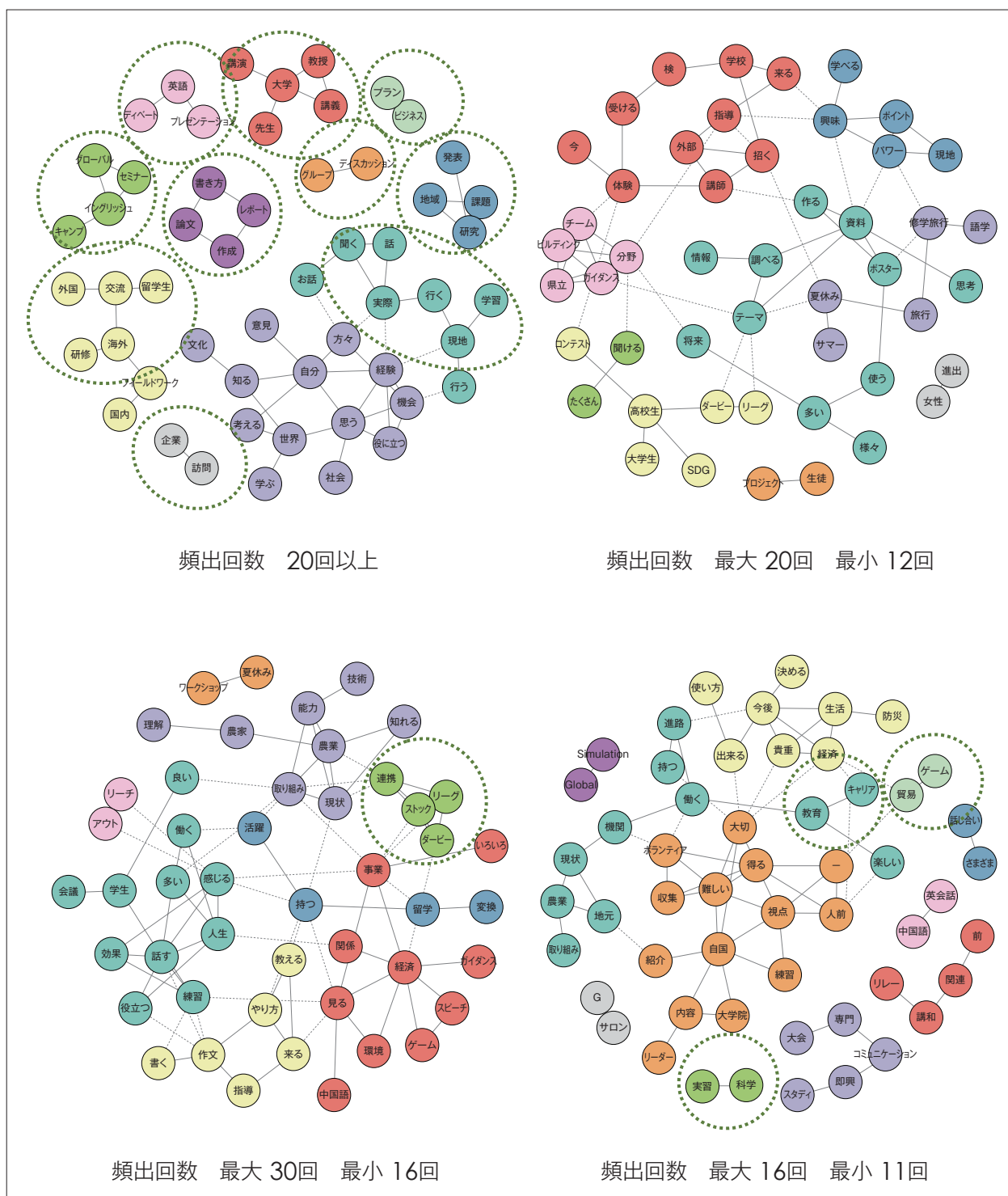


図 8-3-3 共起ネットワーク (役に立ったプログラム)

(③ - 3) 考察

本質問では、具体的なプログラムを聞いていることから概念の整理ではなく、具体的な手法を確認した。その結果、役に立ったプログラムとして、以下が列挙されていた。

- ・ 留学生との交流
- ・ イングリッシュセミナー、サマーキャンプ
- ・ 論文の作成、レポートの書き方
- ・ 英語によるプレゼンテーション、ディベート
- ・ 大学による講演
- ・ 企業訪問
- ・ ビジネスプランの作成
- ・ 研究発表
- ・ 現地調査、現地学習
- ・ ストックリーグ、貿易ゲーム
- ・ キャリア教育
- ・ 科学的な実習

④質問内容：追加するとよいと思われるプログラム

(④ - 1) 頻出キーワード

表 8-3-6 に、各品詞における上位 50 の頻出キーワードを表記する。

表 8-3-6 頻出キーワード 上位 50 (追加するとよいと思われるプログラム)

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能		未知語		動詞		形容詞		副詞	
海外	592	交流	213	様々	14	多く	18	SGH	64	思う	105	多い	21	特に	289
英語	144	研修	163	自由	9	今	17	プレゼン	9	増やす	93	良い	15	実際	36
外国	89	プログラム	149	身近	9	時間	15	S G H	7	行く	31	無い	13	もう少し	17
機会	67	授業	76	必要	9	たくさん	12	フィールド トリップ	4	学ぶ	28	楽しい	6	カッ	3
フィールド ワーク	66	ディスカッ ション	55	いろいろ	5	ほか	8	JICA	3	行う	24	深い	5	少し	2
留学生	42	研究	36	さまざま	5	全体	6	SG	3	使う	20	面白い	5	別に	2
生徒	38	参加	36	好き	4	すべて	3	3D	2	聞く	20	高い	4	ピタリ	1
国内	36	ディベート	31	十分	4	前	3	Debate	2	知る	19	少ない	4	一度	1
学校	33	体験	31	グローバル	3	それぞれ	2	english	2	考える	13	欲しい	4	一度に	1
文化	32	活動	30	多様	3	将来	2	have	2	受ける	12	安い	3	何より	1
自分	27	留学	29	平和	3	長期間	2	I	2	設ける	12	近い	3	改めて	1
他校	25	話	20	重要	2	直接	2	no	2	調べる	11	広い	3	強いて	1
講座	24	意見	18	正直	2	その後	1	ー	2	取り入れる	10	嬉しい	2	更に	1
高校	24	会話	18	単純	2	以前	1	い	2	見る	9	詳しい	2	全く	1
企業	23	交換	17	頻繁	2	一部	1	インターシ ップ	2	関わる	8	正しい	2	同じく	1
全員	23	講演	16	豊か	2	近く	1	エクセル	2	思いつく	8	浅い	2	漠然と	1
同士	21	見学	15	豊富	2	結果	1	スカイプ	2	触れる	8	短い	2	比較的	1
地域	20	調査	14	密接	2	結局	1	スタディー ツアー	2	違う	7	難しい	2		
国際	19	学習	13	アカデミッ ク	1	現在	1	スピーキン グ	2	感じる	7	幅広い	2		
世界	18	追加	13	ネイティブ	1	今後	1	(Excel	1	出る	7	強い	1		
プレゼンテ ーション	17	解決	12	メイン	1	自ら	1	(SKYPE	1	分かる	7	興味深い	1		
高校生	17	指定	12	ローカル	1	初め	1	about	1	学べる	6	激しい	1		
大学	17	発表	12	ロジカル	1	場合	1	AI	1	教える	6	厳しい	1		
グループ	14	希望	9	可能	1	全部	1	all	1	増える	6	上手い	1		
校外	14	経験	9	暇	1	多数	1	APCC	1	話す	6	新しい	1		
政治	14	勉強	9	確か	1	中盤	1	be	1	行ける	5	素晴らしい	1		
学生	13	訪問	9	活発	1	普段	1	BOP	1	高める	5	早い	1		
現地	13	練習	9	完全	1	country	1	思い当たる	5	長い	1				
コミュニケ ーション	12	講義	8	貴重	1	D	1	持つ	5	幼い	1				
経済	12	討論	8	苦手	1	DANCE	1	招く	5						
職業	12	関係	7	広範囲	1	day	1	食べる	5						
積極	12	実施	7	更	1	discussed	1	問う	5						
英会話	10	実践	7	高度	1	eSports	1	減らす	4						
言語	10	連携	7	自然	1	foreign	1	取り組む	4						
語学	10	お話	6	失礼	1	foreigner	1	出来る	4						
先生	10	レポート	6	主	1	FW	1	触れ合う	4						
興味	9	一緒	6	小規模	1	Going	1	知れる	4						
内容	9	協力	6	詳細	1	Google	1	入れる	4						

第8章 自由記入欄の分析

分野	9	作成	6	真摯	1	GSG	1	用いる	4						
クラス	8	充実	6	親切	1	ICT	1	来る	4						
テーマ	8	ホームステイ	5	大事	1	idea	1	話し合う	4						
ボランティア	8	育成	5	大丈夫	1	idea.	1	話せる	4						
個人	8	開発	5	大変	1	ikemenn	1	含む	3						
修学旅行	8	活躍	5	著名	1	listening	1	呼ぶ	3						
日本語	8	関連	5	同様	1	many	1	向ける	3						
パソコン	7	議論	5	独自	1	MIT	1	広げる	3						
自国	7	講習	5	独特	1	more	1	作る	3						
人数	7	習得	5	莫大	1	nasi	1	取る	3						
大会	7	説明	5	不十分	1	nothing	1	書く	3						
能力	7	増加	5	不便	1	nothing.	1	上げる	3						

(④ - 2) 共起ネットワーク

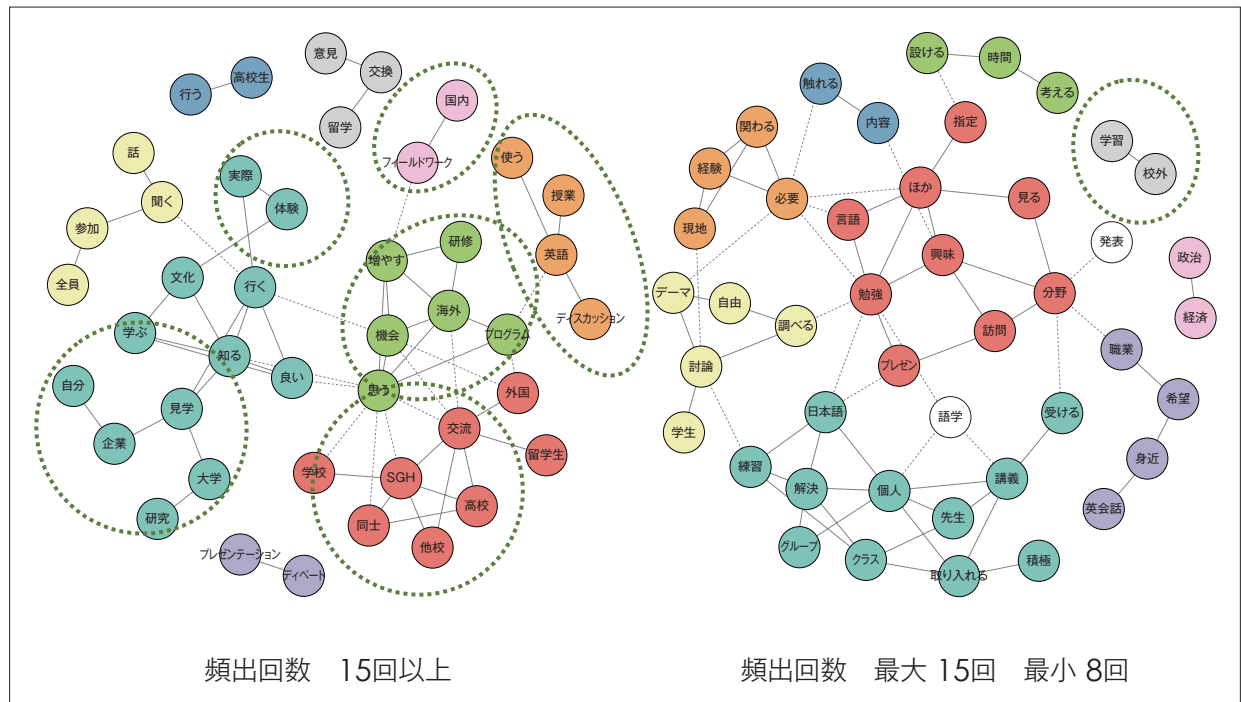


図8-3-4 共起ネットワーク（追加するとよいと思われるプログラム）

(4) - 3) 考察

本質問では、具体的なプログラムを聞いていることから概念の整理ではなく、具体的なプログラムを確認した。その結果、追加するとよいと思われるプログラムとして、以下が列挙されていた。

- ・ 海外研修プログラム
- ・ 国内フィールドワーク、校外学習
- ・ 体験できるプログラム
- ・ 企業見学、大学見学
- ・ 他の SGH 校との交流
- ・ 英語によるディスカッションのプログラム

補遺：調査票

高校生のグローバル関心と SGH についての意識調査

筑波大学 SGH 研究班

このアンケート調査は、日本の高校におけるグローバル教育の推進を目的として、全国の SGH（スーパーグローバルハイスクール）に所属する高校生のみなさんを対象として実施するものです。以下の実施要領を読み、ご同意いただける方は、本調査へのご協力をよろしくお願いします。

- ・ このアンケートは、完全匿名で行われます（個人名はもちろん、学校名が公表されることは決してありません）。
- ・ 回答には 20 分程度かかります。
- ・ 各質問には、正解や不正解はありません。ありのままの気持ちを回答してください。
- ・ 途中で回答したくないと感じた場合には、中止して構いません。
- ・ アンケートウェブサイトは SSL/TLS 暗号化コミュニケーションにより、個人情報保護されています。
- ・ あなたの回答は、実施責任者がパスワードを用いて厳重管理し、原則 10 年後に破棄されます。
- ・ 締切日（2016 年 10 月 22 日）までに回答をお願いします。

実施責任者：筑波大学 SGH 研究班

（研究代表者：筑波大学附属学校教育局教育長特命補佐 永井裕久 sgh-kanjiko@un.tsukuba.ac.jp）

本研究は、筑波大学附属学校教育局研究倫理委員会の承認を受けて実施しています。本研究に関する倫理的な問題については、筑波大学附属学校教育局研究倫理委員会（東京キャンパス事務部企画推進課）までご相談下さい。

東京キャンパス事務部企画推進課 TEL：03-3942-6422、E-mail:fk.kyoren@un.tsukuba.ac.jp

Q 1. 最初に、あなたご自身のことについてお聞かせください。

a. 現在、何歳ですか？

- ☐ 15 歳
- ☐ 16 歳
- ☐ 17 歳
- ☐ 18 歳以上

b. 高校何年生ですか？

- ☐ 1 年生
- ☐ 2 年生
- ☐ 3 年生

c. 性別は？

- ☐ 女性
- ☐ 男性

d. あなたの学校制は？

- ☐ 男女共学校
- ☐ 女子校
- ☐ 男子校

e. これまでに家族旅行や学校の研修等で海外へ行ったことはありますか？

- ☐ ある
- ☐ ない

【海外に行ったことのある方のみ、以下の f. g. にもお答えください。】

f. 通算、何ヵ国・地域に行きましたか？

- ☐ 1
- ☐ 2 ～ 4
- ☐ 5 ～ 7
- ☐ 8 ～ 10
- ☐ 11 以上

g. 通算、どのくらい海外で過ごしましたか？

- ☐ 1 ヲ月未満

Q 2. もし、あなたが日本国内で文化の違いから生じる、困った（困惑した）出来事（例えば、出会った外国人との言葉の壁、ジェスチャー・生活習慣・価値観の違い）に直面したら、あなたは、どのくらい、以下に挙げる行動をとれると思いますか？ 6 段階（1：「全くそうは思わない」～6：「全くその通りだと思う」）で、あてはまる番号を一つ選んでください。

- | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|--------------------------|---|---|---|---|---|---|
| a. 相手が置かれた立場や気持ちを察する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| b. 必要ならば、最初に決めたことを変える。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| c. 自分と異なる立場の人の価値観を尊重する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| d. 複数の視点から問題の原因を考える。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| e. 複数の選択肢を考える。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| f. 相手が意見を述べやすいように心がける。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| g. 相手との協力関係を築くように心がける。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| h. 反対意見にも耳を傾ける。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| i. 自分の得意な能力を活かす行動をとる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| j. 自分の意見を効果的に述べて相手に説明する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

k. 解決が進んでいるか、途中で確認する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 今回の出来事から、学んだことを振り返る。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. 解決に向けて強い熱意を持ち続ける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 3. 以下について、あなたの気持ちや考えに最も近い番号を一つ選んでください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 どちらかと言えばあてはまらない
- 4 どちらかと言えばあてはまる
- 5 あてはまる
- 6 とてもよくあてはまる

	1	2	3	4	5	6
a. 外国語の資料（新聞、ニュース）を用いて、自分の興味ある話題に関する情報を積極的に収集することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 困難な課題を粘り強く考え、必要に応じて資料を調べたり、人に尋ねたりして解決できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 複雑な問題に直面しても、問題の要点や構造を整理しながら考えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 説明が難しい複雑なテーマであっても、その要点を捉え、他の人へ分かりやすく伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. よく知らない国の人たちと親しくなれる自信がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 自国の歴史・文化について、外国人に外国語で伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 自国の政治・経済について、外国人に外国語で伝えられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 様々な外国へ行ってみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 外国の様々な異文化に触れることは楽しいと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 自分に自信がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 自分の短所よりも長所に目を向けている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 自分は人のために役立つことができる人間だと思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. 集団での問題解決場面において、率先してリーダー的な役割を担うことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
n. 議論する際、自分だけが意見を述べることなく、参加者それぞれの意見を聞くことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
o. 自分のやりたいことを見つけ、それに情熱を傾けたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
p. 将来は、外国の大学や大学院への留学（6 ヶ月以上）も視野に入れて勉強したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
q. 海外ボランティアなどの国際的な活動に積極的に参加したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
r. 将来、外国で働くことも視野に入れて、職業を選択したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 4. 社会で起きるさまざまな問題に対する解決方法を見つけるために、あなたは、どのくらい、以下の方法を用いることができますか？それぞれの項目について、6 段階（1：「全くあてはまらない」～ 6：「とてもよくあてはまる」）で、あてはまる番号を一つ選んでください。

- 1 全くあてはまらない
- 2 あてはまらない
- 3 どちらかと言えばあてはまらない
- 4 どちらかと言えばあてはまる
- 5 あてはまる
- 6 とてもよくあてはまる

	1	2	3	4	5	6
a. 関心ある事柄について、その問題の本質を発見したり、原因を説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 問題の重要度の根拠を見つけることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 生じている問題について、知識や経験を通して説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 問題に影響を与える原因の候補をチームメンバーと一緒に検討して列挙し、まとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 問題の原因を挙げ、重要度をまとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 問題解決に向けて仮説を立てることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 問題解決に合ったデータや情報を選択できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 集めたデータや情報の正確さがわかる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 作成した図表について、必要に合わせた使い方ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
j. 分析した結果から、重要な結論を導き出すことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
k. 提案を適切にプレゼンテーションできる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
l. 提案した内容がどこまで有効かについて説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
m. 自分の発表に対する質問に適切に回答できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- 1 ☐ 外国人の高校の先生
- 2 ☐ 日本人の大学の先生
- 3 ☐ 外国人の大学の先生
- 4 ☐ 卒業生
- 5 ☐ 日本人の民間企業や政府機関等の人
- 6 ☐ 外国人の民間企業や政府機関等の人
- 7 ☐ その他（具体的に： _____）

1: まったくない
2: たまにある
3: 時々ある
4: よくある
5: 非常に多い

- | | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|---|
| a. 英語による英語以外の授業 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b. 日本語でのディスカッション | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| c. 英語でのディスカッション | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| d. 日本語でのグループワーク | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| e. 英語でのグループワーク | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| f. 日本語でのプレゼンテーション | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| g. 英語でのプレゼンテーション | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| h. 日本語でのレポート作成 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| i. 英語でのレポート作成 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- 1 ○ロジカルシンキング（筋が通った考え方や説明の方法）
- 2 ○ディベート形式（異なる立場からの議論）
- 3 ○ディスカッション形式（自由に意見を述べ合う方法）
- 4 ○問題解決のための調査方法（データの取り方や分析の方法）

- 5 ○プレゼンテーション（資料の作り方、発表の仕方、質問への答え方）
- 6 ○レポートのまとめ方（形式や構成）
- 7 ○研究やレポートで、気を付けるべきガイドライン（著作権や引用のルール等）
- 8 ○上記は、いずれも学んだことがない。

Q 8. 以下のような学習活動に何回くらい参加したことがありますか？（あてはまる回数をそれぞれ選んでください。）

0：0回（参加したことはない）

1：1回

2：2回

3：3回

4：4回以上

	0	1	2	3	4
a. 国内他高校との交流会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. コンテストへの参加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 国内フィールドワーク（実施調査）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 海外フィールドワーク（実施調査）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 海外への修学旅行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. 海外研修（語学・特定テーマの学習等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
g. 海外からの留学生との交流	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h. 各種英語検定試験（英検、TOEIC、TOEFL、IELTS、GTEC、TEAP 等）対策講座	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【海外研修に参加した方のみお答えください。】

SQ. 海外研修の訪問先はどこでしたか？（滞在期間の長い順番に3つまで選んでください。）

国名1 プルダウン

国名2 プルダウン

国名3 プルダウン

【海外からの留学生との交流に参加した方のみお答えください。】

SQ. 海外からの留学生の出身はどこですか？（交流機会が多い順番に3つまで選んでください。）

国名1 プルダウン

国名2 プルダウン

国名3 プルダウン

あなたの学校の SGH プログラム（講座）に関して質問します。

Q 9. あなたの学年の SGH プログラム（講座）はどのように実施されていますか？（当てはまるもの一つを選んでください。）

- ☐ 全員が時間割の中で受けることになっている。
- ☐ 定期的に開かれ、希望者の中から、選抜された生徒のみ受けることができる。
- ☐ 定期的に開かれ、受講は任意だが、希望すれば誰でも受けることができる。
- ☐ 不定期的に講座が開かれている。

Q10. あなた自身は、これまで SGH プログラム（講座）を受けましたか？

- ☐ 受けた ⇒ Q11 へ進んでください。
- ☐ 受けていない ⇒ アンケートはこれで終了です。

Q11. これまで、どのくらいの期間、SGH プログラム（講座）を受講していますか？

- ☐ 7 ヶ月未満
- ☐ 7 ヶ月～1 年未満
- ☐ 1 年～1 年 7 ヶ月未満
- ☐ 1 年 7 ヶ月～2 年未満
- ☐ 2 年以上

Q12. 平均すると 1 週間に何回くらい、SGH プログラム（講座）を受講していますか？

- ☐ 1 回以下
- ☐ 2 回
- ☐ 3 回
- ☐ 4 回以上

Q13. 来年度の新入生に、SGH プログラム（講座）への積極的な参加を勧めたいと思いますか？
（あてはまるもの一つを選んでください。）

- ☐ ぜひ勧めたい
- ☐ 勧めたい
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり勧めない
- ☐ 勧めない

Q14. 自由記入欄

これまでの SGH 受講を通して、①よかったところ、②改善した方がよいところ、③役に立ったプログラム、④追加するとよいと思われるプログラムのアイデアがあれば、以下の欄に記入してください。

①よかったところ

②改善した方がよいところ

③役に立ったプログラム

④追加するとよいと思われるプログラム